

周防大島町の陸産・淡水産貝類 (汽水産を含む)

増野和幸

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒 750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

Land and Fresh Water Molluscs (including Brackish Water) of the Suo-oshima Town (Yashirojima Islands), Yamaguchi Prefecture, Japan

Kazuyuki MASHINO

The Firefly Museum of Toyota Town, Nakamura 50-3, Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Pref., 750-0441 Japan

Abstract A total of 67 species extant land, fresh-water and brackish-water molluscs were observed in the Suo-oshima Town from December 2022 to October 2023. Fifty three land molluscan species including *Diplommatina nakashimai* Minato, 2015, *Megalophaedusa* sp. cf. *iyensis* (Minato & Tada, 1977), *Aegista hirosifukudai* Hirano, Kameda & Chiba, 2015 and twelve of fresh-water molluscan species including *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927) and *Gyraulus tokyoensis* (Mori, 1938) were briefly described. In addition, I have recorded tow brackish-water molluscan species including *Assimineia japonica* Martens, 1877.

キーワード: 陸産貝類, 淡水産貝類, 周防大島町, 屋代島

Key words: land mollusc, fresh-water mollusc, Suo-oshima Town, Yashirojima Islands

はじめに

山口県周防大島町は山口県南東部に位置し、瀬戸内海西部に浮かぶ東西約 28 km、南北約 12 km の島である。島の面積は約 138 km² で、瀬戸内海の島としては淡路島、小豆島に次ぐ広さをもっている。北には安芸灘、南には伊予灘が広がっている。本土側の柳井市大島と周防大島町小松の間は大島瀬戸で隔てられており、現在は大島大橋 (1976 年開通) でつながっている。今回の調査地域は合併前 (2004 年 10 月に合併) の旧大島郡に所属した 4 町、久賀町、大島町、東和町、橘町である。地勢は全般的に山岳起伏の斜地で 600m 級の山々 (嘉納山・文殊山・嵩山・源明山・馬ノ背) が連なり、海岸部に狭隘な丘陵地が広がる程度で、大半は山地が占めている。気候は年間平均気温 16.2 °C、年間降水量は 1735 mm と少なく温暖少雨の典型的な瀬戸内海式気候となっている (東安下庄観測地点資料より)。また、島々も多く、屋代島の周囲には笠佐島・前島・浮島・情島・沖家室島など約 30 余りの島がある。

周防大島の陸・淡水産貝類に関する知見としては、旧町が独自に編集・発行した『久賀町町誌』(1954)、『久賀町史 現代編』(2004)、『周防大島町誌 復刻版』(1994)、『東和町誌』(1982)、『橘町史』(1983) 等をみても、歴史的・民俗学的視点からの海産資源に関する記述はみられるが、実際の調査に基づく記述は皆無かあってもわずかである。その中でも、『周防大島町誌 復刻版』の中に「生物」の項目の 1 つとして「軟体動物」が取り上げられている。この中で町内には陸産・淡水産を除いて海産貝が 132 種普通に産するとし、“東三浦東部海岸”で採集した海産貝類として 41 種を書き出している。また、『橘町史』(1983) では「魚

介類」の項目を設け、魚類や潮間帯生物について記述している。その中に“安下庄周辺”の貝類として巻き貝 61 種、二枚貝 26 種を記録し、“陸産貝類”としてシイボルトギセル（シイボルトコギセルのことか）、チクヤケマイマイ、ウスカワマイマイ、サンインマイマイ、セトウチマイマイの 5 種を具体的にあげている。『大島瀬戸の貝類』として県立山口博物館が実施した夏季科学講座の報告がある（河本, 1966）。この観察会は当時県立博物館が開催する恒例の現地開催行事で、毎回、多数の参加者で盛況だった。この時の観察会は、1966 年 7 月 25 日～27 日の 3 日間、当時の大島中学校を会場に実施された。報告の中には 272 種の貝類が記録されている。その中には、河口汽水域および飛沫帯岩礁に生息する種としてカワグチツボ、シノミミガイ、カワザンショウガイ、クリイロカワザンショウ、ウスコミミガイの 5 種の記録がある。また、“小松・志駄岸八幡宮”の社叢でハリマギセル（スグヒダギセルのシノニム）、コベソマイマイ、チクヤケマイマイ、ソメワケシロマイマイ（現：チョウシュウシロマイマイ）、オカチョウジガイの 5 種に加えて、ピロウドマイマイ類の幼貝 1 個体を採集したことが報告されている。また、全国に先駆けて県立山口博物館が刊行した『山口県産貝類目録』（1956）には、大島瀬戸・瀬戸内海産の海産種が多数記載されている。その中に“東和町伊保田”産のオオケマイマイ、および“伊保田”産のハリマギセルの 2 種が掲載されている。ほかに、県内の貝類について県立山口博物館が図録的にまとめた『概説山口県の貝類』（1992）の中では、県内各地の貝類相解説の中で、「大島瀬戸：玖珂郡大島町瀬戸 - 西瀬戸、大島郡大島町瀬戸」に焦点を当てた解説があり、「大島町側の海岸に良好な環境が残されている」との記述がある。残念ながら島内の陸・淡水産貝類に関する記述はなされていない。県内の外来のナメクジ類であるチャコウラナメクジに関して、調査・研究が実施されその結果の報告がある（Kano *et al.*, 2001）。この中で町内に生息するチャコウラナメクジが、6 カ所で採集されたことが記録されている。

このように周防大島全体における陸・淡水産貝類相に関して、過去の記録からは断片的な知見は得ることができるが、概略を知ることはできない。そこで、貝類相把握を目的に、2022 年 12 月から 2023 年 10 月に現地実施を実施した。本報告はその結果と筆者らが過去において断片的に調査した記録、さらに入手することができた過去の報告等の記録を基にした。

この調査結果は、県内および周防大島町内各地域の非海産貝類相把握の基礎資料として役立つものと考えられる。

調査地および方法

現地調査（2022～2023 年）に加えて過去の記録（文献）および豊田ホテルの里ミュージアム収蔵標本、筆者らの所有する記録を基に、周防大島町の陸産・淡水産、一部汽水産貝類の生息状況をまとめた。文献での記録は、一般に公表されている分布記録が掲載された論文や記載論文を対象とした。なお、今回の調査では、河川の河口域における感潮帯で観察できた汽水産もあわせて採集した。ただし、具体的に標本類を確認できなかった記録は記録データに含めず、補遺として別にリストアップした。

現地調査では目視で確認した個体を直接採取するほかに、微小種は落葉下の土壌を篩にかけ持ち帰り、顕微鏡下でピンセットを用いて採取した。なお、標本の同定は基本的に増野が行い、同定確認を矢野重文氏にお願いした。

標本は、豊田ホテルの里ミュージアム貝類資料として保管する。

周防大島町の陸産・淡水産貝類（汽水産の一部を含む）の分布記録

本調査により得られた陸・淡水・汽水産貝類を以下に一覧にした。種毎に【記録】及び【備考】を加えた。【記

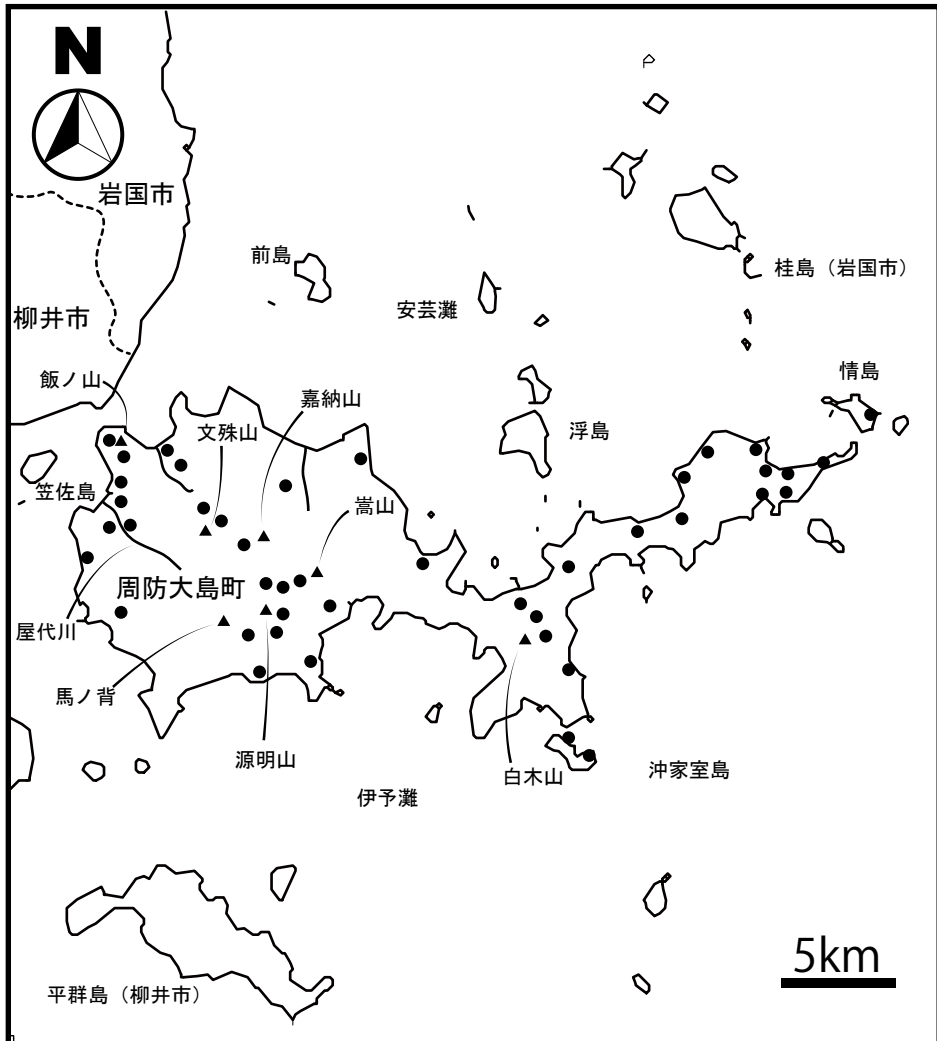


図1. 現地調査地点（黒丸）

【録】は本調査で確認された生息地名、日付（採集日 yyyy-mm-dd）、個体数（標本が存在するにもかかわらず、実数の把握ができなかった場合は産地に「* 印」を付す.）、採集者の順に示した。採集者については氏名を記したが、特別に明記のないものは増野が記録したものである。生息地名は“山口県周防大島町”を省略し、それ以下の地名および場所を記載した。個体数は、標本として収蔵している個体数で、幼体・成体の区別はしていない。また、採集時の生死についての記録は取っていない。個体数の記述のないものは、採集個体がないものである。【備考】には形態や生態、および注目すべき特徴などについて解説した。また、各種学名の後に陸産または淡水産、汽水産を表示してわかりやすくした。

学名および配列は基本的には福田 宏（2020）『岡山県野生生物目録 2019 ver. 1.4 軟体動物門』を参考にしたが、陸産については、湊 宏（1988）『日本陸産貝類総目録』、Motochin, Wang & Ueshima, R. (2017) を、淡水産貝類については、波部忠重（1990）『日本産非海産水棲貝類目録』も参考にした。

調査結果

本調査で、生貝または死殻により陸産 24 科 53 種、淡水産 9 科 12 種、汽水産 1 科 2 種を確認した。そ

のうち19種は環境省のレッドリスト（環境省, 2020; 以下環境省 RDB）、9種はレッドデータブックやまぐち（山口県環境生活部自然保護課, 2019; 以下山口県 RDB）の対象種であった。また、外来種として陸産貝類では2種（トクサオカチョウジガイ, チャコウラナメクジ）、淡水産貝類では3種（コシダカヒメモノアラガイ, ハブタエモノアラガイ, サカマキガイ）を確認した。

陸産・淡水産・汽水産合わせて67種を確認した。これは過去に報告のある県内他地域、例えば旧美祢郡（秋芳町・美東町）の84種（増野, 1989）、旧下関市東部の85種（増野・川野, 2023）などと比較するとやや少ない種数である。一般に陸産貝が多産するとされる美祢市などの石灰岩地帯（黒田・波部, 1949; 湊, 1980）、海岸部や河口干潟・島嶼があることなどによっても種数、個体数ともに多くなる傾向がある。

今回の調査地域は、600 m級の山地部や島嶼は存在するが石灰岩地域は存在しない。多くの島々があるにもかかわらず、島の調査が2島のみで終わり課題も残した。こうした中での今回のまとめは、課題を残してはいるものの、島全体の陸淡水産貝類の概況を知る上では有効と考える。

以下に本調査で記録した全67種の採集地および生息状況などについて記す。

腹足綱 Class Gastropoda

アマオブネガイ目 Order Neritopsida

ヤマキサゴ科 Family Helicinidae

1. ヤマキサゴ *Waldemaria japonica* (A. Adams, 1861) (図版 I-1a-c) (陸産)

【記録】 飯ノ山*, 1994, 河添佳典; 笛吹峠, 2023-II-26, 17 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 2 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex.; 源明山, 2023-III-20, 1 ex.; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭。

【備考】 殻径7~8 mm, 殻高10 mm 前後の螺塔の低い円錐形。殻表は滑らかで、黄褐色~橙色をしている。殻口は肥厚し、半月状の蓋がある。山地性で落葉下にみられる。本州・四国・九州に分布。山口県内での生息は少なく、萩市・阿武町・山口市・岩国市・周南市・柳井市・上関町などでの記録があるが、いずれも個体数は少ない。分布は県中・東部に偏っている。今回の記録も山地部である。山口県 RDB では絶滅危惧 II 類。

アマオブネガイ科 Family Neritidae

2. イシマキガイ *Clithon retropictum* (Martens, 1878) (図版 I-2a-c) (淡水産)

【記録】 東三浦東浜南三蒲川（用水路）, 2023-IV-4, 7 exs.; 小松屋代川（排水路）, 2023-V-21, 3 exs.

【備考】 殻径10~20 mm の半球状で、殻頂部が侵食により欠損している個体が多い。殻表面は緑褐色の殻皮で覆われ、細かい三角形の斑紋模様がある。石灰質の蓋をもつ。塩分を含む汽水域から純淡水域に生息。岩礫上や川の堰などでは高い密度で観察される。礫表面に灰白色の胡麻粒状の卵囊を生み付け、孵化した幼生は一旦河口を下り、海水に接した後河川を遡り生活する。今回の調査では小松・屋代川河口住宅地の排水路および東三浦・三蒲川に注ぐ用水路の2カ所で確認した。生息範囲は川の流域が狭く、流量も少ないためかごく狭い範囲であった。

原始紐舌目 Order Architaenioglossa

ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae

3. ビルスプリムシオイガイ *Chamalycæus pilsbryi* (Kobelt, 1902) (図版 I-3a-c) (陸産)

【記録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 2 exs.; 源明山山頂, 2023-III-20, 3 exs.; 源明山峠, 2023-III-20, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 2 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 6 exs.; 飯ノ山, 2017-VIII-8, 2 exs..

【備考】 山地の落葉下に生息する殻径3.5 mm, 殻高2 mm ほどの低い円錐形をし、殻に角質の薄い蓋

をもつ。殻背面にうじ虫状の呼吸管をもつため、“虫負い”の名が付く。県内に広く分布するが、個体数は多くない。今回の調査では、島の西・中央山地部の広い範囲で確認した。各産地とも個体数は2、3個体と少なかった。本土側の室津半島にも本種が生息している。

4. ヤマトニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860 (図版 I-4a-c) (陸産)

【記 録】西屋代・屋代川（河岸）, 2023-III-20, 4 exs.; 文殊山・文殊堂, 2023-II-23, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 4 exs.; 飯ノ山, 2005-VI-19, 1 ex.; 飯ノ山*, 1994, 河添佳典; 馬ノ背, 2023-V-4, 3 exs.; 伊保田・八幡宮, 2023-V-21, 1 ex.; 和田・国道 437 号沿道（駐車場）, 2023-V-21, 1 ex.; 情島, 1993-XII-18, 2 exs.; 地家室, 1993-XII-18, 1 ex.. 雨振*, 1993-XII-17; 大崎*, 1993-XII-17; 内入*, 1993-XII-18; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文。

【備 考】各地の落葉下に普通に生息し、里山から山地まで生息域は広い。殻径 20 mm, 殻高 18 mm ほどの円錐形の殻。殻口は丸く、角質の薄い蓋をもつ。殻色は淡い茶褐色で、縞模様が現れる。雌雄異体で雌の方が大きい。本州・四国・九州に分布。島内全域に広く生息する。

5. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus* Martens, 1866 (図版 I-5a-c) (陸産)

【記 録】延命の滝, 2023-II-23, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 6 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 3 exs.; 伊保田・陸奥記念館付近, 2022-IX-15, 1 ex.; 伊保田・八幡宮, 2023-V-21, 1 ex.; 伊保田・小伊保田, 1993-XII-18, 1 ex.; 伊保田, 1993-XII-17, 1 ex.; 西安下庄・家房（海岸沿道）, 2005-VI-19, 1 ex.; 西安下庄・家房（青年の家付近）, 2005-VI-19, 1 ex.; 西安下庄・長天, 1993-XII-17, 1 ex.; 西安下庄・大泊, 2007-2, 3 exs.; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 6 exs.; 飯ノ山, 1996-III-18, 3 exs.; 2005-VI-19, 1 ex.; 2017-VIII-8, 14 exs.; 飯ノ山*, 1994, 河添佳典; 飯ノ山登山口, 2017-VIII-8, 4 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 2 exs.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 1 ex.; 嵩山・西山麓, 2023-X-18, 1 ex.; 西方・白木社大島居付近, 2023-IV-4, 1 ex.; 和田・国道 437 号沿道（駐車場）, 2023-V-21, 3 exs.; 和田, 1993-XII-18, 1 ex.; 情島, 1993-XII-18, 1 ex.; 地家室, 1993-XII-18, 1 ex.; 沖家室島, 1993-XII-18, 1 ex.; 大崎, 1993-XII-17, 1 ex.; 内入, 1993-XII-18, 1 ex.; 上浦（農道）, 1993-XII-17, 1 ex.; 油宇・日向泊, 1993-XII-18, 1 ex.; 鯛峰, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文。

【備 考】各地の落葉下に生息し、里山から山地まで生息域は広い。殻径 14 mm, 殻高 10 mm ほどの低い円錐形の殻で、厚い石灰質の蓋をもつ。殻色は黄褐色で光沢が強い。本州・四国・九州に分布。島内全域に生息している。

6. ミジンヤマトニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900) (図版 I-6a-c) (陸産)

【記 録】嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 2 exs.; 嵩山・西麓, 2023-X-18, 1 ex.; 源明山峠, 2023-X-18, 3 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 3 exs.; 飯ノ山, 2017-VIII-8, 25 exs.; 西方・白木山山頂付近, 2023-IV-4, 10 exs.

【備 考】山地の落葉下に生息する。殻径 2 mm, 殻高 1.2 mm ほどの殻で、ヤマトニシを著しく小さくしたような形をし、蓋をもつ。殻は白く半透明で、滑らかで光沢がある。個体数が多く、螺層の巻き方や殻形に多様性がみられ、逆向きに巻く個体も時々観察できる。本州・四国・九州・沖縄に分布。今回の確認個体数は比較的多かった。

7. ヤマクルマガイ *Spirostoma japonicum* (A. Adams, 1867) (図版 I-7a-c) (陸産)

【記 録】延命の滝, 2023-II-23, 1 ex.; 西屋代・屋代川（河岸藪）, 2023-III-20, 1 ex.; 馬ノ背, 2023-V-4, 3 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 9 exs.; 2005-VI-19, 1 ex.; 2017-VIII-8, 12 exs.; 飯ノ山*, 1994, 河添佳典; 飯ノ山*, 1996-III-18; 飯ノ山登山口*, 2017-VIII-8; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 1 ex.; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 2 exs.; 伊保田・陸

奥記念館付近, 2022-IX-15, 2 exs.; 伊保田・八幡宮, 2023-V-21, 2 exs.; 伊保田・小伊保田, 1993-XII-18, 1 ex.; 伊保田・松ヶ鼻*, 1993-XII-18; 西安下庄・家房(海岸沿道), 2005-VI-19, 1 ex.; 地家室, 1993-XII-18, 1 ex.; 情島, 1993-XII-18, 1 ex.; 大崎, 1993-XII-17, 1 ex.; 神浦(農道), 1993-XII-17, 1 ex.; 久賀・八幡*, 2017-VIII-8; 鯛峰, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文。

【備考】 山地の落葉下に生息する。殻径 15 mm, 殻高 8 mm ほどの低い円錐形の殻をもつ。蓋は角質でとんがり帽子状で珍奇である。臍孔は著しく広がる。雌雄二型で雌の殻が雄よりも大きい。中部以西の本州・四国・九州に分布。県内ではヤマタニシ, アツブタガイなどとともに生息し, 各地に普通に生息する。今回の調査では山地・平地いづれでもみられた。

ゴマガイ科 Family Diplommatinidae

8. ダイオウゴマガイ *Diplommatina nakashimai* Minato, 2015 (図版 I-8) (陸産)

【記録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 6 exs.; 2023-X-18, 9 exs..

【備考】 山地の落葉下に生息する殻径 2.2 mm, 殻高 4.5 mm ほどの, 紡錘形をした右巻きの微小貝。ゴマガイ類としては大形。殻表は淡黄白色からオレンジ色をしている。殻表面には縦肋が規則的にあり光沢をもつ。殻口縁は反曲し白く, 薄い角質の蓋をもつ。緊線が殻口縁の上部癒着部の中央に位置し, 臍孔は閉じる。腔襞は完全に無く, 本種と同様に大形種であるオオウエゴマガイ *D. collarifera tenuiplica* Pilsbry, 1900 が短い腔襞があることで識別できる(湊, 2015)。タイプ産地は鳥取県日野町であり, 山口県内では上関町, 萩市, 岩国市の山地部で記録されており, 今回の調査は 4 例目である。島内中央部の嵩山で採集されたが, さらに調査すれば山地部に広く生息する可能性がある。山口県 RDB では情報不足。

アズキガイ科 Family Pupinidae (図版 I-9) (陸産)

9. アズキガイ *Pupinella rufa* (A. Adams & Sowerby II in Sowerby II, 1864) (図版 I-8) (陸産)

【記録】 伊保田・陸奥記念館付近, 2022-IX-15, 16 exs. 2023-IX-15, 5 exs..

【備考】 山地の落葉下に生息する殻径 4 mm, 殻高 9 mm ほどの, 紡錘形をした右巻き殻をもつ。殻色は深紅色で, 殻口は円く, 口縁に 1 対の溝状の切れ込みがある。薄い角質の蓋をもつ。県内の記録は岩国市, 周南市, 山口市, 美祢市, 宇部市, 下関市と多くない。生息に関して興味深い点は, 産地の林床のみでなく, 意外に市街地公園や沿道の藪などに多数がみられる場合がある。今回記録した場所は, 沿道に設置された駐車敷地の草むらに多数の個体が観察された。こうした点から他地域からの移入の可能性も考えられる。山口県 RDB では準絶滅危惧。

タニシ目 Order Viviparida

タニシ科 Family Viviparidae

10. マルタニシ *Cipangopaludina* cf. *laeta* (Martens, 1860) (図版 I-10a-c) (淡水産)

【記録】 西屋代・屋代川, 2023-III-20, 1 ex.; 西屋代(水田溝), 2023-V-4, 2 exs.; 東三浦・文殊山登山口(水田), 2023-X-18, 3 exs..

【備考】 水田や湿地, 水路や小川などの年間を通して水の涸れない場所に生息する。成貝は殻高 50 mm を越える丸い円錐形の殻をもつ。殻表面には, 微細な毛束が抜け落ちた後にできる刻点列状の彫刻がある。近年, 水田整備が進み, 湿地や谷津田などの生息適地が減少し, 観察する機会も減った。かつては各地に普通だったが, 現在では限られた場所にしかみられなくなった。今回の調査では 3 カ所の河川, 用水路や水田から記録した。溜池なども精査すれば生息地は増えると推察される。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB では準絶滅危惧。

オニノツノガイ目 Order Cerithiida

カワニナ科 Family Semisulcospiridae

11. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859) (図版 I-11) (淡水産)

【記 録】西屋代・屋代川, 2023-III-20, 2 exs.; 東三蒲・東浜南 (用水路), 2023-IV-4, 8 exs..

【備 考】殻高 20 ~ 50 mm で, 黒褐色の紡錘形. 殻頂部に近い殻表面には弱い縦肋, 周縁から殻底にかけて螺条脈がある. 殻頂部が流水などにより破損することが多い. 各地の河川や用水路に普通. “清流にすみ, ゲンジボタルの餌となる貝” としてきれいな水にすみ生き物として扱われるが, むしろ人里や市街地に近い小河川や水路など, 有機質を多分に含む水域を好む傾向がある. 今回 2 カ所のみ記録だったが, 島内に河川や堤など生息環境が少ないことを反映していると考えられる. 他地域に比べて個体数も少ない.

エゾタマキビ目 Order Littorinida

カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

12. ツブカワザンショウ *Assiminea estuarina* Habe, 1946 (図版 II-1) (汽水産)

【記 録】小松・屋代川 (河口), 2023-V-4, 4 exs..

【備 考】殻径 2 ~ 3 mm, 殻高 3 ~ 4 mm ほどのやや膨らんだ円錐形. 殻は小形であるが厚く堅固である. 淡黄褐色の地に赤褐色の帯を縫合下, 周縁, 殻底付近にもつ. 本州中部から九州の河口や淡水の影響する湾内に生息する. 今回の調査では, 屋代川河口のヨシの根元や泥表面に多数みられた. 環境省 RDB では準絶滅危惧.

13. カワザンショウ *Assiminea japonica* Martens, 1877 (図版 II-2) (汽水産)

【記 録】小松・屋代川 (河口), 2023-V-4, 50 exs..

【備 考】殻径 4 mm, 殻高 8 mm 前後. 前種と混生しているが, 殻が細めで大形. 殻色は黄褐色で, 茶褐色の不明瞭な 3 本の帯をもつ. 臍孔は無い. 河口周辺の汽水域や淡水の混じる川岸のヨシや水生植物の根元に生息する. 本州・四国・九州に広く分布する. 今回の調査では, 屋代川河口でのみ確認した.

エゾマメタニシ科 Family Bithyniidae

14. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927) (図版 II-3) (淡水産)

【記 録】東三蒲・文殊山登山口 (水田), 2023-VII-27, 1 ex..

【備 考】各地の水田や池沼などに生息する, 殻径 4 mm, 殻高 6 mm ほどの小さなタニシの形をした巻き貝. 殻口に角質の薄い蓋をもつ. 兵庫県以西の本州・四国・九州に分布. 県内の分布は局所的で, 主に湿地や干拓地の多い瀬戸内側の柳井地域 (増野・吉崎, 2007) や山陽小野田地域 (保阪・福田, 1996) にみられる. 内陸部では旧徳地町 (福田敏, 1990; 福田・福田, 1995; 福田宏, 2002), 県西部の下関市 (増野・川野, 2017; 2020; 2021; 2022; 2023) での記録がある. 半島・島嶼部では瀬戸内側の平生町 (増野, 2008b), 上関町 (増野, 2008c) の 2 カ所で, 今回の記録が 3 例目である. 環境省 RDB では絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB では準絶滅危惧.

有肺目 Order Pulmonata

モノアラガイ科 Family Lymnaeidae

15. コシダカヒメモノアラガイ *Galba cf. truncanula* (O. F. Müller, 1774) (図版 II-4a, b) (淡水産)

【記 録】小松・手島 (荒湿地), 2023-V-4, 1 ex..

【備 考】殻径 2.5 mm, 殻高 5 mm ほどの細長い円錐形をした巻き貝。殻表面には微細な成長脈があり、薄く茶褐色。狭い臍孔がある。ヨーロッパ原産の外来種と考えられるが、在来種も否定できない(板垣, 1956; 増田・内山, 2004)。日本各地に分布し、おもに水田の畦や湿地などに生息する。今回採取した場所も、耕作放棄地の湿地であった。環境省 RDB では情報不足。

16. ヒメモノアラガイ *Orientogalba ollula* (Gould, 1859) (図版 II-5) (淡水産)

【記 録】小松・手島(荒湿地), 2023-V-4, 2 exs.; 小松(水田跡), 2023-VII-27, 1 ex.; 東三蒲・東浜南(用水路), 2023-IV-4, 2 exs.; 東三蒲・文殊山登山口(水田), 2023-VII-27, 3 exs.; 2023-X-18, 2 exs..

【備 考】殻径 8 ~ 10 mm, 殻高 10 ~ 15 mm ほどの円錐形をした巻き貝。池沼や湖、流れの緩やかな水路など止水域を好んで生息する。各地に分布するが、類似した外来種も帰化している。同所的にみられるモノアラガイ *Radix japonica* (Jay, 1857) と比べて、殻口が狭く、螺塔が全体に高くなる。殻表面は光沢がある。一對の触角は三角形で、触角の基部の内側に眼点がある。今回の調査では屋代川下流の小松地域と三蒲川下流の東三蒲地域の 2 カ所で確認した。

17. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817) (図版 II-6) (淡水産)

【記 録】東三蒲・東浜南(用水路), 2023-IV-4, 1 ex..

【備 考】殻径 6 mm, 殻高 10 mm ほどで、殻口の高さが殻高の半分ほどになり、前種ヒメモノアラガイに比較して螺塔が高く伸び、殻口縁が大きく広がるモノアラガイと比較すると、その広がりは弱く縦に長い。殻表面には微細な成長脈および密な螺条脈がある。殻質は薄く黄褐色である。狭い臍孔がある。原産地などは不詳であるが、外来種である(増田・内山, 2004)。今回の調査では 1 カ所から記録した。

サカマキガイ科 Family Physidae

18. サカマキガイ *Physella acuta* (Draparnaud, 1805) (図版 II-7) (淡水産)

【記 録】東三蒲・東浜南(用水路), 2023-IV-4, 3 exs.; 東三蒲・文殊山登山口(水田), 2023-VII-27, 1 ex.; 2023-X-18, 3 exs..

【備 考】各地の水田や池沼、用水路などにみられる。殻径 6 mm, 殻高 10 mm ほどの紡錘形で、左巻きである。右巻きのモノアラガイやヒメモノアラガイの触角が三角形をしているのに対し、本種は細長い鞭状をしていて異なる。ヨーロッパ原産の外来種とされ(増田, 2002)、県内各地でみられる。在来のモノアラガイやヒメモノアラガイに比べて水の汚染に強く、多少環境の悪い排水路などでも生息がみられる。今回の調査では東三蒲地域でのみ観察した。

ヒラマキガイ科 Family Planorbidae

19. トウキョウヒラマキガイ *Gyraulus tokyoensis* (Mori, 1938) (図版 II-8a-c) (淡水産)

【記 録】東三蒲・文殊山登山口(水田), 2023-VII-27, 5 exs..

【備 考】水田の用水路や溜池などの水草に生息する。殻径 5 mm, 殻高 1.5 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis* Dunker, 1854 に類似するが、本種はより偏圧する。殻周縁にキール状の微隆起があり、毛状の殻皮をもつこともある(増田・内山, 2004)。全国に分布するが、山口県内での記録は少ない(福田・福田, 1995; 保阪・福田, 1996; 増野, 2022b)。山口県 RDB では情報不足。

20. クルマヒラマキガイ(レンズヒラマキガイ) *Helicorbis* cf. *cantori* (W. H. Benson, 1850) (図版 II-9a-c) (淡水産)

【記 録】小松・手島(荒湿地), 2023-V-21, 29 exs.; 小松(水田跡), 2023-VII-27, 7 exs.; 東三蒲・文殊山登山口(水

田), 2023-VII-27; 2023-X-18, 21 exs..

【備考】 水田の用水路や池沼の水草に生息する。殻径 8 mm, 殻高 2 mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると殻頂部はわずかに窪み, 周縁の底角は著しく角張り, 底面はほぼ平坦になる。殻色は淡い黄色または赤褐色で光沢がある。県内での記録は県東部の柳井・平生地域 (増野, 2008b; 増野・吉崎, 2007), 山口市 (福田・福田, 1995), 宇部・山陽小野田地域 (保阪・福田, 1996) と, 瀬戸内側の低湿地に限定されていた。下関市内では, 20 年以上前に豊浦町黒井での記録 (Hori *et al.*, 1997) があり, 県西部での唯一の記録だった。近年の調査で, 下関市全域に広く生息することが報告されている (増野・川野, 2020; 2021; 2022; 2023)。今回の調査では, 小松地域と東三蒲地域の 2 カ所で記録した。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

後鰓亜綱 Class Opisthobranchia

柄眼目 (マイマイ目) Order Helicida

アフリカマイマイ科 Family Achatinidae

21. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) (陸産)

【記録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 1 ex.; 2023-II-26, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 3 exs.; 飯ノ山, 2017-VIII-8, 2 exs.; 小松・志駄岸八幡宮, 2023-V-4, 1 ex.; 伊保田・陸奥記念館付近, 2022-IX-15, 2 exs.; 伊保田, 1993-XII-17, 1 ex.; 油宇・日向泊, 1993-XII-18, 1 ex.; 油宇, 1993-XII-18, 2 exs.; 情島, 1993-XII-18, 2 exs.; 西安下庄・大泊, 2007-II, 2 exs.; 神浦 (農道), 1993-XII-17, 1 ex.; 神浦, 1993-XII-17, 1 ex.; 内入, 1993-XII-18, 1 ex.; 西方・下田, 1993-XII-17, 1 ex..

【備考】 人家周辺や里山の草地などに普通にみられる。殻高 10 mm ほどの細長い紡錘形の貝。殻は淡褐色で光沢がある。生貝の軟体部は濃い黄色を呈する。類似種にホソオカチョウジガイ *A. pyrgula* (Schmacker & Böttger, 1891), サツマオカチョウジガイ *A. satsumense* (Pilsbry, 1906), ユウドオカチョウジガイ類似種, マルオカチョウジガイ *A. brevispira* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) 等がいるが, 殻頂部から体層にかけての膨らみや殻全体のプロポーシオンに差異がある。北海道・本州・四国・九州に分布。島内の住宅地周辺から山地まで広く生息が確認された。

22. ユウドオカチョウジガイ類似種 *Allopeas cf. heudei* (Pilsbry, 1906) (図版 II-10, 11) (陸産)

【記録】 馬ノ背, 2023-V-4, 1 ex.; 西安下庄・大泊, 2007-II, 1 ex.; 西屋代・屋代川 (河岸藪), 2023-III-20, 1 ex..

【備考】 殻径 2.7 mm, 殻高 10 mm 程度でオカチョウジガイに類似するが, オカチョウジガイが殻頂部から体層にかけてふっくらしているのに対して, 本種は殻頂からほっそりと体層にいたる。また, ホソオカチョウジガイほど細くはならない。生息環境は, 里山というよりは山地性である。県内での記録は少ない。今回の調査では 2 カ所で記録した。

23. トクサオカチョウジガイ *Paropeas achatinaceum* (L. Pfeiffer, 1846) (図版 II-12) (陸産)

【記録】 西方・下田八幡宮, 2022-IX-15, 15 exs.; 志佐・湯所, 2005-VI-19, 6 exs.; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文。

【備考】 殻径 3 mm, 殻高 11 mm ほどでオカチョウジガイに似る。殻はオカチョウジガイが殻頂部からふっくら膨らむのに対して, 本種は殻頂部から比較的ほっそりとスマートに殻口に至る。殻表に粗い縦肋があり, 光沢がない。生息環境は, 人家周囲の草むらや里山など人の出入りのある林内の落葉中である。東南アジア原産の外来のオカチョウジガイ類である (黒田, 1958; 黒住, 2012)。山口県内各地に見られ,

今回の調査では2カ所での確認であったが、いずれの場所も個体数は多かった。

タワラガイ科 Family Diapheridae

24. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900) (図版 II-13) (陸産)

【記 録】 馬ノ背, 2023-V-4, 2 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex.; 2023-X-18, 3 exs.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 2 exs.; 西方・白木社大鳥居付近, 2023-IV-4, 2 exs..

【備 考】 殻径 1.5 mm, 殻高 4 mm 前後で, 紡錘形。和名の“タワラ”は米俵の形に因む。殻の各層にはやや斜めの細い縦肋がある。山地の礫地の落葉下に生息するが多産はしない。肉食性で, 死んだ貝殻から数個体がまとまって出てきたこともある。今回の調査では4カ所で, いずれの産地でも個体数は少なかった。

ナタネガイ科 Family Punctidae

25. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Y. Hirase, 1904 (図版 II-14a-c) (陸産)

【記 録】 源明山山頂付近, 2023-III-20, 5 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 1 ex.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 6 exs.; 2023-X-18, 13 exs.; 西方・白木社大鳥居付近, 2023-IV-4, 6 exs..

【備 考】 殻径 1.2 mm, 殻高 0.8 mm と極めて小さい貝。大きさ, 形ともに次種ハリマナタネガイに類似する。殻表面には成長肋はなく, 拡大鏡でみると微細で密な成長脈がある。また, 臍孔はあるが殻径に比べて狭く, ヒメナタネガイより小さい。県内での記録は少ない(岩国市, 周南市, 山口市, 美祢市・下関市; 2022年12月現在)。今回の調査では4カ所から記録した。

26. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900 (図版 III-1a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 5 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex.; 2023-X-18, 1 ex.; 源明山, 2023-III-20, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 2 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 8 exs..

【備 考】 殻径 1.5 mm, 殻高 0.8 mm で, ナタネガイの仲間の中では小形である。殻表面には弱い薄板状成長肋があるが, ヒメナタネガイに比べて滑らかである。周縁は丸く, 臍孔は狭い。県内での記録はミジンナタネガイに比較して多く, 各地で記録されている。今回の調査では5カ所で記録し, 個体数は比較的多かった。

27. ツクシナタネガイ *Punctum morseanum* Pilsbry, 1902 (図版 III-2a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 1 ex..

【備 考】 殻径 2 mm, 殻高 1 mm で周縁は円く, 螺塔が高い。殻表面に弱い成長脈があり, その間に一定間隔に弱い成長肋がある。殻表面の成長脈の粗さを比較すると, ヒメナタネガイとハリマナタネガイの中間程度である。殻径に対して臍孔は小さい。今回の調査では1カ所から1個体のみ記録した。

28. ヒメナタネガイ *Punctum pretiosum* (Gude, 1900) (図版 III-3a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 1 ex.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 2 exs.; 2023-X-18, 2 exs..

【備 考】 殻径 2.2 mm, 殻高 1.3 mm ほどで, ナタネガイ類では大形。殻表面に斜めの薄板状の成長肋が目立ち, ナタネガイ類の中では最も成長脈が粗い。周縁角が強く臍孔は広い。ナタネガイの仲間はいずれも殻径が 2.5 mm 以下と極めて小さく, 殻色も褐色で発見しにくい。採集はもっぱら, 林床の土壌を持ち帰り篩に通した後, 実体顕微鏡の下で行った。今回の調査では2カ所で記録した。

29. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry & Y. Hirase, 1904 (図版 III-4a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 1 ex.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 2 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 2 exs.; 西方・白木社大鳥居付近, 2023-IV-4, 2 exs.

【備 考】 殻径 2 mm, 殻高 1 mm とやや大形である。殻色は淡褐色, 殻表には斜めの薄板状の縦脈がある。周縁には弱い角があり, 臍孔は狭い (矢野, 2016)。県内の記録は少なく, 萩市, 阿武町, 美祢市, 宇部市, 美祢市 (増野, 1989), 防府市 (増野 2022a), 下関市 (増野・川野, 2018; 2021; 2022; 2023) での記録がある。今回の調査では 4 カ所から記録した。

キバサナギガイ科 Family Vertiginidae

30. キバサナギガイ *Vertigo hirasei* Pilsbry, 1901 (図版 III-5) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 1 ex.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 3 exs.; 2023-X-18, 2 exs.

【備 考】 殻径 1 mm, 殻高 1.5 mm ほどで, 丸みの強い楕円形 (蛹形) で光沢がある褐色。各螺層はよく膨れる。殻口が大きく, 成貝の殻口内には 4 本の歯状突起がみられ, 外唇内側には 2 本のプリカ, 内唇上部に 1 歯, 軸唇に 1 歯がある。北海道から沖縄まで分布するが, 生息地は極限的で個体数も少ない。島内での過去の記録として, 飯ノ山で確認されている (増野, 2022)。今回の調査では嵩山で確認され, 飯ノ山から嵩山に至る山地部に生息していることが推察される。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類。

キセルガイ科 Family Clausiliidae

31. シリオレギセル *Megalophaedusa bilabrata* (E. A. Smith, 1876) (図版 III-6) (陸産)

【記 録】 延命の滝, 2023-II-23, 2 exs., 石川 裕; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 2 exs.

【備 考】 殻径 6 mm, 殻高 30 mm 弱の細長いキセルガイ類。殻頂部近くから折れ, 欠損している個体が多い。殻縁は厚く白く, 反転する。内唇の下部に数個の襞が弱くある。本州中部以西の各地に分布する。県内では各地の山地の落葉下でみられる。山地性であるが, 沿道に沿った斜面の藪で繁殖していることもある。今回の調査では 2 カ所で記録した。

32. イヨギセル類似種 *Megalophaedusa* sp. cf. *iyomensis* (Minato & Tada, 1977) (図版 III-7) (陸産)

【記 録】 文殊山・文殊堂, 2022-X-13, 4 exs., 多田昭; 2022-X-24, 1 ex.; 2023-II-23, 1 ex.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 1 ex., 石川裕; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 馬ノ背, 2023-V-4, 1 ex.

【備 考】 殻径 4.5 mm, 殻高 20 mm 弱の紡錘形をしたキセルガイ類。殻全体のプロポーシオン, 殻質ともにカワモトギセル *M. kawamotoi* (Kuroda & Taki, 1944) に類似するが, 体層から殻頂にかけてほっそりとした形状が異なる。殻口は洋梨形で小さく, 縁は反曲する。下軸板は唇縁に達する。月状襞はよく発達し, 上部が弧状を描き, 下方は短く曲がった下腔襞に連続する。本個体の発見のきっかけは, 文殊堂社叢内の調査を行っていた香川県在住の貝類研究者・多田 昭氏がカワモトギセル類似個体を発見 (2022. 10. 13) したことによる。今後, 解剖学的, 遺伝子的な解析を基にしたに詳細な研究結果を待ちたい。現時点では愛媛県長浜町をタイプ産地として記載された (湊, 1994) イヨギセルの類似種としておく。今回の調査で, 生息の確認は島中央部の山地一帯である。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類。

33. ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871) (図版 III-8) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-V-4, 2 exs.

【備 考】 各地の里山や市街地の草地, 落葉下に生息する殻径 7 mm, 殻高 25 mm ほどの中形のキセルガイ類。人家周辺にも生息し, 比較的なじみのあるキセルガイ類である。本州・四国・北九州に分布。今

回の調査では嵩山のみであったが、平地部も含め島全域に広く生息していると考えられる。

34. モリヤギセル *Stereophaedusa moriyai* (Kuroda & Iw. Taki, 1944) (図版 III-9) (陸産)

【記 録】嘉納山, 1983-VII-29, 24 exs., 多田 昭; 文殊山・文殊堂, 2022-X-13, 1 ex., 多田 昭; 2022-X-24, 2 exs.

【備 考】殻径 8 mm, 殻高 30 mm 前後のふっくらとした紡錘形のキセルガイ類。広島県北部をタイプ産地とし、中国地方全域及び四国西部に分布する。基亜種のオキギセル *S. vasta* (Böttger, 1877) が九州に分布し、山口県がその境界となっている (増野, 2014)。かつて山口県産はオキギセルとされていた (藤原, 1972) が、腔襞の数が少ないこと、生殖器の盲管が受精囊柄部よりも長い点などから、山口県産は本種とされた (湊, 1974; 1994)。山地の林床・倒木の裏などに生息することから、島中央部の山塊に細々と生息していることが推察できる。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに準絶滅危惧種。

35. スグヒダギセル *Zaptyx strictaluna* (Böttger, 1877) (図版 III-10) (陸産)

【記 録】文殊山・文殊堂, 2022-X-13, 3 exs. 多田 昭; 嵩山・帯石観音, 2023-II-23, 3 exs., 宮崎晋介; 小松・志駄岸八幡宮, 2023-V-21, 7 exs.; 小松・志駄岸八幡宮*, 1966-VII-26, 河本卓介 (ハリマギセルと記載, 県博河本コレクション, No. 289); “油田村伊保田*”, 7exs., 採集日不詳, 前田弥吉 (ナガトギセルと記載, 県博河本コレクション, No. 311)

【備 考】殻径 3.5 mm 殻高 15 ~ 20 mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類。里山の倒木や寺社の古木、山林の落葉下などに生息する。人家近くの藪の中に集団でみられることがある。かつては山口県西部に分布する個体をナガトギセル *Z. subaurantiaca* Pilsbry, 1900 (タイプ産地: “Deyai, Nagato” 長門・出合), 県東部に分布するものをハリマギセル *Z. (Hemiphaedusa) harimensis* Pilsbry, 1901 (タイプ産地: “Kashima, Harima” 香島・播磨) (Pilsbry, 1901) としていたが、現在ではスグヒダギセルのシノニム (同種異名) としてまとめられている (湊, 1994)。島内調査では生貝の観察機会が少ないが、生息に適した環境は多くあり、今後の調査により確認事例は増加すると考えられる。なお、スグヒダギセルに包括されている個体群が、今後、遺伝子解析や解剖的知見により種分化されることが期待される。

ナメクジ科 Family Philomycidae

36. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson in Cantor, 1842) (図版 III-11) (陸産)

【記 録】久賀・八田八幡宮, 2022-VI-7, 5 exs.

【備 考】在来ナメクジ類で、軟体部が淡い灰褐色をし、薄い茶褐色の二本の筋がある“フタスジナメクジ”と呼ばれる (澤島・ほか, 2018)。体長約 30 mm ほど。人家や庭園などの湿った所に生息し、野菜や草花などを食害する。各地に見られるが、最近では背面に甲羅をもつ外来種のチャコウラナメクジの方に馴染みがある。全国に分布。今回は 1 カ所での観察であったが、春から夏の時期、各地で観察できるはずである。

コウラナメクジ科 Family Limacidae

37. チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* (Férussac, 1821) (図版 III-12) (陸産)

【記 録】小松・志駄岸八幡宮, 2023-V-21, 1 ex.; 小松開作, 1997-V-11, 2xs., 吉崎 宏 (2001); 家房, 1997-V-11, 15 exs., 吉崎 宏 (2001); 横見, 1997-V-11, 11 exs., 吉崎 宏 (2001); 棕野, 1997-V-3, 10 exs., 吉崎 宏 (201); 日良居, 1997-V-3, 13 exs., 吉崎 宏 (2001); 森, 1997-V-3, 12 exs., 吉崎 宏 (2001)。

【備 考】軟体部は茶褐色で体長は 30 ~ 50 mm。背面に 2 本の縦線があり、頭部に続いた前半部分に甲羅を埋包した肉塊がある。この肉塊を開くと、石灰質の薄い甲羅を摘出することができる。人家周辺の植え

込みの中、植木鉢やプランターの裏など、時には家の中まで侵入して困ることもある。ヨーロッパ原産の外来種（山口・波部, 1958）であり、今日、駆除対策のナメクジという本種をさす場合が多い。今回の調査で1カ所の確認であったが、過去の記録をみると島内全域に普通に生息していると言える。

シタラ科 Family Euconulidae

38. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877) (図版 IV- 1a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 4 exs.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 15 exs.; 嵩山西麓, 2023-X-18, 4 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 7 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 2 exs.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 8 exs.; 西方・白木社大島居付近, 2023-IV-4, 6 exs..

【備 考】 殻径 2 mm 弱, 殻高 1 mm の低平な円錐形の殻をもつ。各地の林内落葉下に生息する。殻は半透明で淡黄褐色を呈し、光沢がみられる。臍孔は閉じる。ヤクシマヒメベッコウに類似するが、殻径が同じくらいの個体で本種と比較すると殻がやや高くなり螺層の幅が狭く、螺層数の多い個体が本種である。殻径が同じくらいの大きさでも殻高が低く、螺層の幅が広がる個体をヤクシマヒメベッコウとして、識別の目安とすることができる。今回の調査では7カ所で記録し、各産地とも個体数は多かった。

39. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902) (図版 IV- 2a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 13 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 7 exs.; 2023-X-18, 8 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 2 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 5 exs..

【備 考】 殻径 2.5 ~ 3 mm, 殻高 1.3 mm ほどの低平な円錐形の殻をもつ。各地の林内落葉下に生息する。殻色は淡黄褐色をして光沢がある。臍孔は閉じる。ヒメベッコウに似るが、本種の方が一回り大きく成長する。識別の目安として、幼貝の時は螺層の幅が広く、相対的に螺塔が低くなる。今回の調査では4カ所で記録した。

40. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A.Adams, 1868) (図版 IV- 3a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 4 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex., 宮崎晋介; 2023-II-26, 3 exs.; 2023-X-18, 2 exs.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 3 exs.; 源明山峠付近, 2023-II-26, 5 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 3 exs.; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭。

【備 考】 各地の林内の落葉下にすむ殻径 2.3 mm, 殻高 1.8 mm ほどの微小貝である。螺塔の高い円錐形で巻き数が多い。螺層の幅が狭いので、他の微小貝との識別は容易である。体層周縁に角があり、殻底は弧状となる。殻表面はなめらかで光沢がある。今回の調査では5カ所で記録した。

41. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) (版 IV- 4a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 6 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex.; 2023-X-18, 3 exs.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 1 ex.; 文殊山・文殊堂, 2022-X-24, 1 ex..

【備 考】 各地の林内落葉下に生息する。殻径 5 mm, 殻高 3 mm ほどの低い円錐形の貝。殻表面はやや赤褐色を呈し、ガラス質のような光沢ではなく、暗く鈍い光沢がある。ルーペで殻表をみると弱い波状の成長脈がある。臍孔は閉じる。生息は極めて少なく、今回の調査では4カ所で記録したが、個体数は多くない。環境省 RDB では情報不足。

42. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901) (図版 IV- 5a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 1 ex..

【備 考】林内の落葉下に生息し、殻径 2.5 mm、殻高 3 mm ほどの微小な貝。淡い黄褐色で丸みのある円錐形をしている。体層の周縁は丸みのある角を形成するがキール状にはならない。臍孔は小さく開く。カサキビやヒメカサキビの幼貝に似るが、体層に丸みがある点で区別ができる。県内での記録は少ない。今回の調査では、岩屋観音付近の林床から 1 個体のみ採集できた。

43. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902) (図版 IV- 6a- c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex..

【備 考】林内の落葉下に生息し、殻径 2 mm, 2.5 mm。ハリマキビに似ているが、次体層の膨らみが弱く、螺塔もやや低い。体層は円くなり、殻全体が小さい。県内での記録は少ない。今回の調査では 1 カ所のみ確認した。環境省 RDB では準絶滅危惧。

44. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900) (図版 IV- 7a- c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 13 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex.; 2023-X-18, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 1 ex..

【備 考】林内の落葉下に生息し、殻径 1.5 mm、殻高 1.8 mm ほどの微小な貝。やや螺塔の高い、丸みのある円錐形で殻表に光沢がある。ハリマキビ、ヒゼンキビの 2 つと比べると最も小さい。環境省 RDB では準絶滅危惧。

45. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900) (図版 IV- 8a- c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 11 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 3 exs.; 2023-X-18, 3 exs.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 2 exs.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 5 exs..

【備 考】林内のアオキなどの常緑広葉樹の葉裏に付着していることが多い。殻径 5 mm、殻高 3.5 mm ほどの丸みのある円錐形で淡黄白色。薄質半透明で光沢がある。微小な臍孔がある。幼貝では周縁角が強く、成貝では周縁が丸くなり、一見別種に見える。本州、四国、九州に分布する。生息地は市街地近くの里山というよりは、山間地の落葉下であることが多い。今回の記録も山地である。

46. コシダカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883) (図版 IV- 9a- c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 14 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 1 ex.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 1 ex.; 馬ノ背, 2023-V-4, 8 exs.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 1 ex..

【備 考】林内の落葉中に生息し、殻径 2 mm、殻高 2.5 mm ほどの螺塔の高い円錐形の殻をもつ。各層に 5～6 条の螺条脈があり、体層には角をもつ。本州、四国、九州に分布する。県内では各地の林床に普通に生息する。今回の調査では 5 カ所で記録した。

47. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* (Kuroda & Miyayama, 1943) (図版 V- 1a- c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 7 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 3 exs. 2023-X-18, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 馬ノ背, 2023-V-4, 2 exs.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 1 ex..

【備 考】林内の落葉中に生息し、殻径 1.8 mm、殻高 1.2 mm ほどで、やや低い円錐形。体層の周縁に 3 本の殻皮質板状褶を有する螺状脈 (矢野, 1990) がある。薄く半透明で、灰白色の殻色。臍孔は狭く開く。本州、四国、九州に分布する。県内では各地で見ることができが、個体数は多くない。今回、山地部の 4 カ所で確認した。環境省 RDB では準絶滅危惧。

48. カサキビ *Trochochlamys crenulata* (Gude, 1900) (図版 V-2a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 10 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 2 exs.; 2023-V-4, 1 ex.; 2023-X-18, 6 exs.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 7 exs.; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex.; 多田 昭.

【備 考】 殻径 3 mm, 殻高 4 mm ほどの円錐形の微小貝である。殻頂部が鋭角で、殻頂から周縁にかけてほぼ直線的な円錐形。体層周縁にはキール状の角がある。林内の落葉下に生息する。本州、四国、九州に分布し、県内では各地に普通。今回の調査では 5 カ所から記録した。

49. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) (図版 V-3a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 1 ex..

【備 考】 林内の落葉下に生息し、殻径 2 mm, 殻高 3 mm ほどの微小な貝。淡い黄褐色で丸みのある円錐形をしている。体層の周縁角はキール状で鋭い。臍孔は小さく開く。カサキビやヒメカサキビの幼貝に似るが、螺層に丸みがある点で区別できる。本州、四国、九州に分布するが、県内の記録は少ない。今回の調査では嵩山の 1 個体のみの記録である。環境省 RDB では情報不足。

50. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Y. Hirase, 1909) (図版 V-4) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-26, 26 exs.; 2023-X-18, 27 exs.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 15 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 7 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 23 exs..

【備 考】 殻径 2 mm, 殻高 4 mm ほどの微小貝。螺塔が著しく高い円錐形で、体層周縁に角がある。林内の落葉下に生息するが、局所的である。タカキビ *Coneuplecta praealta* (Pilsbry, 1902) に酷似するが、殻全体がふっくらしたタカキビに対して、本種はほっそりした円錐形である。この点から本種に同定した。今回の調査で、島の西部中央に位置する山地部一帯に高密度で生息していることがわかった。山口県内での分布は局所的で、下関市・美祢市・萩市で記録されている（増野・川野, 2023）。環境省 RDB では準絶滅危惧、山口県 RDB では絶滅危惧 II 類。

51. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901) (図版 V-5a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 5 exs.; 源明山峠付近, 2023-III-20, 2 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 7 exs.; 白木山山頂付近, 2023-IV-4, 2 exs.; 久賀・大崎鼻, 1993-XII-17, 1 ex..

【備 考】 森林の落葉中に生息する殻径 3 mm, 殻高 2.2 mm ほどの微小貝である。低円錐形で極めて薄質である。殻表は微細な糸状縦脈と不明瞭な螺状脈が現れ、光沢がない。殻頂角が大きく、殻は全体としてカサキビに比較して低い。周縁角はキール状で鋭い。本州、四国、九州に分布。県内では各地に生息する。島内の 5 カ所で記録された。環境省 RDB では準絶滅危惧。

ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae

52. ヒラベッコウガイ *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900) (図版 V-6a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 1 ex.; 地家室, 1993-XII-18, 1 ex..

【備 考】 森林の落葉中に生息する殻径 4 mm, 殻高 9 mm ほどの微小貝。殻は低円錐形で、殻頂部がわずかに出る。体層は急に大きくなり、周縁は丸い。殻色は淡黄褐色、半透明で光沢が強い。臍孔は小さく開く。本州、四国、九州に分布する。山口県内各地に生息するが、個体数は極めて少ない。島内でも 2 個体の確認である。環境省 RDB では情報不足。

53. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877) (図版 V-7a-c) (陸産)

【記 録】飯ノ山, 2017-VIII-8, 8 exs.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-V-4, 3 exs.; 嵩山西麓, 2023-X-18, 1 ex.; 嵩山山頂付近, 2023-X-18, 1 ex.; 源明山山頂付近, 2023-III-20, 1 ex.; 馬ノ背, 2023-V-4, 1 ex.; 内入, 1993-XII-18, 1 ex.; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 1 ex.; 沖家室島・本浦, 1993-XII-18, 2 exs.; 情島, 1993-XII-18, 1 ex..

【備 考】各地の林内落葉下に生息する, 殻径 7 mm, 殻高 3.5 mm ほどの低い円錐形の殻をもつ微小な貝。殻色は淡い黄褐色で表面には強い光沢がある。縫合に沿って白色の縁がある。殻底の中ほどは白くなる。臍孔は狭いが開く。本州, 四国, 九州に分布。県内各地に普通にみられ, 島内でも 10 カ所で記録した。

ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family Camaenidae

54. ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850) (図版 VI-1a-c) (陸産)

【記 録】飯ノ山, 2017-VIII-8, 1 ex.; 飯ノ山登山口*, 1996-III-18; 西三浦・大多満根神社, 1996-III-18, 1 ex.; 西方・大積, 1993-XII-18, 1 ex.; 西方・下田八幡宮, 2022-IX-15, 2 exs.; 西方・下田*, 1993-XII-17; 伊保田・雨振, 1993-XII-17, 1 ex.; 地家室, 1993-XII-19, 1 ex.; 情島, 1993-XII-18, 1 ex.; 西安下庄・長天*, 1993-XII-17; 油宇*, 1993-XII-18; 森*, 1993-XII-17; 神浦*, 1993-XII-17; 八幡*, 2017-VIII-8.

【備 考】殻径 25 mm, 殻高 20 mm ほどの丸い円錐形の貝。殻質は薄く, 成貝になっても殻口は肥厚反転しない。殻色は淡い黄褐色。人家周辺の畑や空き地に, 普通に生息する。乾燥にも強く, 潮風を強く受ける海浜植物の根元などにもみられる。畑作物に食害を与えることがある。本州, 四国, 九州に分布し, 県内各地に生息。島内でも広く生息が確認された。江戸時代に長崎でオランダ商館の医師だったシーボルト Philipp Franz Balthasar von Siebold (1796-1866) に因んだ陸貝 2 種のうち, 本種の学名に彼の名前が入っている (湊, 1989)。もう 1 種はシイボルトコギセル *Reinia sieboldii* (L. Pfeiffer, 1848) である。

55. チクヤケマイマイ *Aegista aemula* (Gude, 1900) (図版 VI-2a-c) (陸産)

【記 録】飯ノ山*, 1996-III-18; 飯ノ山 2017-VIII-8, 3 exs.; 飯ノ山, 2005-VI-19, 6 exs.; 西三浦・大多満根神社, 1996-III-18, 2 exs.; 笛吹峠, 2023-II-26, 3 exs.; 西安下庄・家房, 2005-VI-19, 6 exs.; 西安下庄・南長屋*, 1993-XII-17; 西安下庄・大泊*, 1993-XII-17; 西方・下田八幡宮, 2022-IX-15, 2 exs.; 西方・大積*, 1993-XII-18; 志佐・場所, 2005-VI-19, 5 exs.; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 3 exs.; 油宇・新宮神社, 1993-XII-18, 14 exs.; 油宇・馬ヶ原*, 1993-XII-18; 伊保田, 1993-XII-17, 5 exs.; 伊保田・雨振*, 1993-XII-17; 伊保田・両源田*, 1993-XII-18; 伊保田・小伊保田*, 1993-XII-18; 伊保田・松ヶ鼻*, 1993-XII-18; 土居*, 1993-XII-17; 森*, 1993-XII-17; 神浦*, 1993-XII-17; 地家室・佐連*, 1993-XII-18; 沖家室島*, 1993-XII-18; 内入*, 1993-XII-18; 和田*, 1993-XII-18; 鯛峰, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭。

【備 考】林内落葉下に生息する, 殻径 16 mm, 殻高 8 mm ほどの低い円錐形をした貝。殻色は暗い黄褐色で, 殻表は細かい鱗片状殻皮で覆われ, 周縁には竜骨状の殻皮をもつ。臍孔は広く開く。タイプ産地は島根県松江市竹矢町。中国地方, 隠岐諸島, 九州北部に分布。山口県内には各地に生息している。島内でも全域で記録された。

56. マメマイマイ *Aegista commoda* (A. Adams, 1868) (図版 VI-3a-c) (陸産)

【記 録】飯ノ山, 2005-VI-19, 3 exs.; 飯ノ山*, 2017-VIII-8; 延命の滝, 2023-II-23, 1 ex.; 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 4 exs.; 和田・国道 437 号沿道 (駐車場), 2023-V-21, 1 ex.; 八幡, 1993-XII-17, 1 ex.; 内入, 1993-XII-18, 1 ex.; 大崎, 1993-XII-17, 1 ex.; 神浦 (農道), 1993-XII-17, 1 ex..

【備 考】殻径 7 mm, 殻高 5 mm ほどの球状の小形円錐形。殻色は黄褐色。殻は薄く脆い。林内の林床落葉下に生息するが, 意外にも人家周辺や沿道の草むらに生息することも多い。殻口はわずかに反転する。

臍孔は小さく開く。近畿以西の本州，中国，隠岐諸島に分布する。山口県内では県南東部の島嶼部，上関町（増野・阿部，2001；増野，2008c），柳井市平郡島（増野，1990），田布施町（増野，2008a），平生町（増野，2008b）で記録されている。島内各地で記録された。

57. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae* (Gude, 1900) (図版 VI-4a-c) (陸産)

【記 録】 笛吹峠，2023-II-26, 4 exs.

【備 考】 殻径 11 mm，殻高 18 mm ほどの小形中円錐の貝。殻色は濃い褐色で，縫合部分の淡い色帯は明瞭で，幅は狭い。草本性植物や低木の葉裏を匍匐する樹上性の貝である。タイプ産地は鹿児島県であるが，九州，山口県に分布する。県内では中・西部に比較的によく観察される。今回の調査では，笛吹峠の 1 カ所で記録された。

58. チョウシュウシロマイマイ *Aegista hiroshifukudai* Hirano, Kameda & Chiba, 2015 (図版 VI-5a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山，1996-III-18, 4 exs.; 飯ノ山登山口，2017-VIII-8, 1 ex.; 山嵩山・岩屋権現付近，2023-V-4, 2 exs.; 小松開作・松ヶ崎，1993-XII-18, 1 ex.; 小松・志駄岸八幡宮，1968-III-27, 1 ex., 藤原廣治（県博，藤原コレクション，標本 No. YPYMZ-Mo-3337. ※ 表記ソメワケシロマイマイ）；1995-V-5, 2 exs.; 2019-VI-27, 1 ex.; 2023-V-4, 1 ex.; 伊保田・雨振，1993-XII-17, 3 exs.; 伊保田・陸奥記念館付近，2022-IX-15, 1 ex.; 伊保田・両源田，1993-XII-18, 3 exs.; 伊保田・小伊保田，1993-XII-18, 2 exs.; 伊保田，1993-XII-17, 1 ex.; 油宇・日向泊，1993-XII-18, 1 ex.; 油宇，2022-IX-15, 1 ex.; 和田・国道 437 号沿道（駐車場），2023-V-21, 3 exs.; 情島，1993-XII-18, 2 exs.; 油田・八幡宮，2022-IX-15, 1 ex.; 久賀・八幡，2017-VIII-8, 1 ex.; 棕野・久保田中郷，1993-XII-17, 2 exs.; 東三蒲・東浜，1993-XII-17, 2 exs.; 鯛峰，1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭；瀬戸・大多満根神社，2005-VI-26, 矢野重文。

【備 考】 殻径 14 mm，殻高 16 mm ほどで中程度の円錐形。林床近くの草本類の葉上や低木の幹や枝を匍匐生活する樹上性。周縁下部に幅の広い赤褐色の色帯をもち，周縁上部にも淡い褐色の色帯が断続的に現れる個体もある。本種は周縁に色帯を有する個体が主であるが，地域的に無帯型が現れる（増野，2008；増野・鳥越，2011）。山口市徳地をタイプ産地として，近年記載された（Hirano *et al.*, 2015）。分布は島根県西部，広島県中・西部，愛媛県北部，山口県東部と瀬戸内海の島嶼部を含めて広く生息している（増野・鳥越，2014）。島内では全域に広く分布している。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類，山口県 RDB では準絶滅危惧。

59. *Aegista* 属の一種 *Aegista* sp. (図版 VI-6a-c) (陸産)

【記 録】 西屋代・屋代川河岸（藪），2023-III-20, 1 ex.

【備 考】 殻径 11 mm，殻高 8 mm の低平な円錐形。殻質は薄く脆い。淡い灰黄褐色で無帯。今回採集した個体は死殻 1 個体であるが，殻口が反り返り成貝であった。本土側の室津半島から上関町長島，八島，祝島一帯に生息する周縁に細い色帯を有する *Aegista* sp. に類似する（増野，2008）。生体を確認して種の確定が望まれる。

60. トサマイマイ類似種 *Aegista cf. kobensis pertenuis* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) (図版 VI-7a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近，2023-II-26, 7 exs.; 2023-X-18, 3 exs.; 嵩山山頂付近，2023-X-18, 3 exs.; 笛吹峠，2023-II-26, 1 ex.; 馬ノ背，2023-V-4, 1 ex.; 白木山山頂付近，2023-IV-4, 1 ex.; 油宇*，1993-XII-18; 久賀・八幡*，1993-XII-17; 西方・下田*，1993-XII-17.

【備 考】 殻径 13 mm，殻高 7.5 mm ほどで，やや螺塔が盛り上がる。林床の落葉下に生息する。山口県内にはオオベソマイマイ類が数種類生息するとされるが，分布の実態ははっきりしていない。県西部には下関市豊西（現：安岡）をタイプ産地とするタキカワオオベソマイマイ *A. friedeliana aperta* (Pilsbry, 1900) が，

県東部には神戸をタイプ産地とするコウベマイマイ *A. kobensis kobensis* (Schmacker & Böttger, 1890) が分布しているとされる。コウベマイマイは“螺頂が低平で、ほとんど水平に近い”とされ(東, 1995), 今回の調査で採集されたように、殻形態がトサマイマイ様の個体も生息している。今後、解剖学的知見に加えて遺伝子分析による検討が待たれる。今回は、殻形態から判断して本種とした。島内各所から記録した。

61. サンインマイマイ *Euhadra dixonii* (Pilsbry, 1900) (図版 VI-8a-c) (陸産)

【記 録】 馬ノ背, 2023-V-4, 1 ex.; 延命の滝, 2023-II-23, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 嘉納山, 1983-VII-29, 2 exs., 多田 昭.

【備 考】 里山や山地の林内に生息する、殻径 35 mm, 殻高 30 mm ほどの大形円錐形の貝。樹木や草本類の葉や枝上に観察され、樹上性。殻は白色の地に、黒色の色帯をもち、色帯の有無など多様な模様を呈す。サンイン(山陰)という和名をもつが、山口県内各地、山陽側、瀬戸内海の島嶼にも分布する(増野, 1993; 2008)。島内でも山地部に生息する。

62. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894) (図版 VI-9a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山登山口*, 2017-VIII-8; 小松・志駄岸八幡宮, 1995-V-5, 2 exs., 伊藤賢司(豊田ホテルの里ミュージアム, 伊藤コレクション); 嵩山・岩屋権現付近, 2023-II-23, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 5 exs.; 和田, 国道 437 号沿道(駐車場), 2023-V-21, 3 exs.; 西安下庄・家房, 2005-VI-19, 1 ex.; 西安下庄・大泊, 2007-II, 1 ex.; 伊保田・両源田*, 1993-XII-18; 伊保田・松ヶ鼻*, 1993-XII-18; 情島*, 1993-XII-18; 油宇*, 1993-XII-18; 棕野・久保田中郷*, 1993-XII-17; 八幡*, 1993-XII-17; 大崎*, 1993-XII-17; 西方・下田*, 1993-XII-17; 西方・大積*, 1993-XII-18; 神浦*, 1993-XII-17; 地家室・佐連*, 1993-XII-18; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文.

【備 考】 殻径 30 mm, 殻高 25 mm ほどの低円錐形の貝。林床の落葉上や人家周辺の藪にもみられ、人里に生息する馴染みのある貝である。殻色は淡黄褐色で、黒色の色帯の有無で多様な模様が現れる。セトウチ(瀬戸内)という和名をもつが、山口県内の各地に普通で、島内全域に生息する。

63. シメクチマイマイ *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900) (図版 VII-1a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山, 2017-VIII-8, 3 exs.; 小松・志駄岸八幡宮, 2023-V-4, 1 ex.; 小松開作・松ヶ崎, 1993-XII-18, 3 exs.; 伊保田・陸奥記念館付近, 2022-IX-15, 1 ex.; 伊保田・松ヶ鼻*, 1993-XII-18; 八幡*, 1993-XII-17; 八幡, 2017-VIII-8, 2 exs.; 西安下庄・家房, 2005-VI-19, 1 ex.; 大崎*, 1993-XII-17; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 2 exs.; 油宇・日向泊*, 1993-XII-18; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭.

【備 考】 殻径 17 mm, 殻高 12 mm ほどで体層が丸い、中程度の大きさをした円錐形の殻。殻色は淡褐色で、強い光沢がある。殻口は反転し、内側に小さな瘤が認められる。臍孔はやや広く深い。里山や低山地の林床に生息する。県内各地にみられるが個体数は少ない。島内の各地に生息する。

64. ニッポンマイマイ *Satsuma japonica* (L. Pfeiffer, 1847) (図版 VII-2a-c) (陸産)

【記 録】 嵩山・岩屋権現付近, 2023-X-18, 1 ex.; 笛吹峠, 2023-II-26, 1 ex.; 小松・志駄岸八幡宮, 1995-V-5, 1 ex., 伊藤賢司(豊田ホテルの里ミュージアム所蔵, 伊藤コレクション)。

【備 考】 殻径 19 mm, 殻高 17 mm ほどで、ややずんぐりした円錐形の殻。周縁は角張る。殻色は淡褐色で、弱い光沢がある。殻口は薄く反転する。臍孔は狭く開く。里山や低山地の林内に生息する。本州に分布。県内各地で見られるが個体数は少ない。島内での記録も少ない。

65. コベソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1866) (図版 VII-3a-c) (陸産)

【記 録】 飯ノ山*, 1996-III-18; 飯ノ山登山口*, 2017-VIII-8; 西三浦・大多満根神社, 1996-III-18, 1 ex.; 小

松・志駄岸八幡宮, 1995-V-5, 1 ex., 伊藤賢司; 1966-VII-27, 1 ex., 藤原廣治（県博, 藤原コレクション, 標本 No. YPYMZ-Mo=3242); 笛吹峠, 2023-II-26, 4 exs.; 馬ノ背, 2023-V-4, 1 ex.; 西方・下田八幡宮, 2022-IX-15, 3 exs.; 西方・大積*, 1993-XII-18; 油田・八幡宮, 2022-IX-15, 1 ex.; 和田・国道 437 号沿道（駐車場）, 2023-V-21, 1 ex.; 西安下庄・大泊, 2007-II, 2 exs.; 西安下庄・長天*, 1993-XII-17; 西安下庄・長屋*, 1993-XII-17; 西安下庄・大泊*, 1993-XII-17; 伊保田・雨振*, 1993-XII-17; 伊保田・両源田*, 1993-XII-18; 伊保田・小伊保田*, 1993-XII-18; 伊保田・松ヶ鼻*, 1993-XII-18; 油宇・日向泊*, 1993-XII-18; 油宇・馬ヶ原*, 1993-XII-18; 情島*, 1993-XII-18; 椋野・久保田中郷*, 1993-XII-17; 久賀・八幡*, 1993-XII-17; 八幡, 2017-VIII-8, 2 exs.; 大崎*, 1993-XII-17; 日前・長浜*, 1992-XII-17; 由良*, 1993-XII-17; 西方・下田*, 1993-XII-17; 森*, 1993-XII-17; 神浦（農道）*, 1993-XII-17; 地家室・佐連*, 1993-XII-18; 沖家室島*, 1993-XII-18; 小泊*, 1993-XII-18; 内入*, 1993-XII-18; 和田*, 1993-XII-18; 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭; 文殊堂, 2022-X-13, 4 exs., 多田 昭; 瀬戸・大多満根神社, 2005-VI-26, 矢野重文.

【備考】 殻経 30 mm, 殻高 25 mm ほどで, 周縁に濃褐色の細い色帯をもつ. 殻色は黄褐色で鈍い光沢がある. 幼貝の時は臍孔が開くが, 成長とともに閉じる. 中部以西の本州, 四国, 九州に分布し, 県内各地に普通にみられる. 本種は殻のサイズにおいて変異が著しく, 大小多様な個体が観察される. 島内全域に普通に観察される.

二枚貝綱 Class Bivalvia

ドブシジミ目 Order Sphaeriida

ドブシジミ科 Family Sphaeriidae

66. ドブシジミ *Musculium japonicum* (Westerlund, 1883) (図版 VII-4) (淡水産)

【記録】 東三蒲・文殊山登山口（水田）, 2023-X-18, 1 ex..

【備考】 殻長 10 mm 前後で殻質は薄く, 殻表面は細かな成長脈があり光沢をもつ. 全国各地の池沼, 水田, 用水路などの泥底に生息する. 卵胎生でふえる. マメシジミ類 *Pisidium* sp. に似ており, 見誤ることがある. 今回の調査では東三蒲の水田で 1 個体のみ記録した.

マルスダレガイ目 Order Veneroida

シジミ科 Family Cyrenidae

67. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 (図版 VII-5a, b) (淡水産)

【記録】 西屋代・屋代川, 2023-III-20, 5 exs..

【備考】 在来の淡水性二枚貝で, 河口域に生息するヤマトシジミ *C. japonica* Prime, 1864 とともに, かつては食用にされた. 殻長 20 ~ 30 mm で, 生息環境によってその大小に多様さが現れる. 小河川の流水中や池・沼などの止水域にすむ. 近年, 生息適地の減少とともに, 外来のタイワンシジミ *C. fluminea* (O.F. Müller, 1774) と置き換わり, 生息地が少なくなっている. 雌雄同体で卵胎生. 殻色は若齢個体では黄褐色であるが, 成貝になると黒褐色を呈する. 今回の調査では, 屋代川流域の 1 カ所で採集した. 環境省 RDB では絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB では情報不足.

まとめ

調査の結果, 周防大島町から陸産 24 科 53 種, 淡水産 9 科 12 種, 汽水産 1 科 2 種, 計 34 科 67 種を記録した. レッドデータブック掲載種などの重要種は, ヤマキサゴ (図版 I-1a-c, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), ダイオウゴマガイ (図版 I-8; 山口県 RDB: 情報不足), アズキガイ (図版 I-9, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), マルタニシ (図版 I-10a-c, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), ツブカワザンショウガ

イ (図版 II- 1, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒメマルマメタニシ (図版 II- 3, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), コシダカヒメモノアラガイ (図版 II- 4a, b, 環境省 RDB: 情報不足), トウキョウヒラマキガイ (図版 II- 8a- c, 環境省 RDB: 情報不足), クルマヒラマキガイ (図版 II- 9a- c, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), キバサナギガイ (図版 III- 5, 環境省 RDB: 絶滅危惧 I 類), イヨギセル類似種 (図版 III- 7, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類), モリヤギセル (図版 III- 9, 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), キヌツヤベッコウ (図版 IV- 4a- c, 環境省 RDB: 情報不足), ヒゼンキビ (図版 IV- 6a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒメハリマキビ (図版 IV- 7a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ウメムラシタラガイ (図版 V- 1a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), オオウエキビ (図版 V- 3a- c, 環境省 RDB: 情報不足), ツシマナガキビ (図版 V- 4, 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), ヒメカサキビ (図版 V- 5a- c, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒラベッコウ (図版 V- 6a- c, 環境省 RDB: 情報不足), チョウシュウシロロマイマイ (図版 VI- 5a- c, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), マシジミ (図版 VII- 5a, b, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 情報不足) の 22 種であった。

周防大島町の陸産・淡水産 (一部汽水産を含む) 貝類のリスト

腹足綱 Class Gastropoda

アマオブネガイ目 Order Neritopsida

ヤマキサゴ科 Family Helicinidae

1. ヤマキサゴ *Waldemaria japonica* (A. Adams, 1861) 山口県 (絶滅危惧 II 類)

アマオブネガイ科 Family Neritidae

2. イシマキガイ *Clithon retropictum* (Martens, 1878)

原始紐舌目 Order Architaenioglossa

ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae

3. ビルスプリムシオイガイ *Chamaelycaeus pilsbryi* (Kobelt, 1902)
4. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860
5. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus* Martens, 1866
6. ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900)
7. ヤマクルマガイ *Spirostoma japonicum* A. Adams, 1867

ゴマガイ科 Family Diplommatinidae

8. ダイオウゴマガイ *Diplommatina nakashimai* Minato, 2015 山口県 (情報不足)

アズキガイ科 Family Pupinidae

9. アズキガイ *Pupinella rufa* (A. Adams & Sowerby II in Sowerby II, 1864) 山口県 (準絶滅危惧)

タニシ目 Order Viviparida

タニシ科 Family Viviparidae

10. マルタニシ *Cipangopaludina cf. laeta* (Martens, 1860) 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (準絶滅危惧)

オニノツノガイ目 Order Cerithiida

カワニナ科 Family Semisulcospiridae

11. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)

エゾタマキビ目 Order Littorinida

カワザンシヨウガイ科 Family Assimineidae

12. ツブカワザンシヨウガイ *Assiminea estuarina* Habe, 1946 環境省（準絶滅危惧）

13. カワザンシヨウガイ *Assiminea japonica* Martens, 1877

エゾマメタニシ科 Family Bithyniidae

14. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiuisuensis* (S. Hirase, 1927) 環境省（絶滅危惧 II 類） 山口県（準絶滅危惧）

有肺目 Order Pulmonata

モノアラガイ科 Family Lymnaeidae

15. コシダカヒメモノアラガイ *Galba* cf. *truncatula* (O. F. Müller, 1774) 環境省（情報不足）

16. ヒメモノアラガイ *Orientogalba ollula* (Gould, 1859)

17. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817)

サカマキガイ科 Family Physidae

18. サカマキガイ *Physella acuta* (Draparnaud, 1805)

ヒラマキガイ科 Family Planorbidae

19. トウキョウヒラマキガイ *Gyraulus tokyoensis* (Mori, 1938) 環境省（情報不足）

20. クルマヒラマキガイ（レンズヒラマキガイ）*Helicorbis* cf. *cantori* (W. H. Benson, 1850) 環境省（絶滅危惧 II 類）
山口県（絶滅危惧 II 類）

後鰓亜綱 Class Opisthobranchia

マイマイ目（柄眼目） Order Helicida

アフリカマイマイ科 Family Achatinidae

21. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)

22. ユウドオカチョウジガイ類似種 *Allopeas* cf. *heudei* (Pilsbry, 1906)

23. トクサオカチョウジガイ *Paropeas achatinaceum* (L. Pfeiffer, 1846)

タワラガイ科 Family Diapheridae

24. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900)

ナタネガイ科 Family Punctidae

25. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Y. Hirase, 1904

26. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900

27. ツクシナタネガイ *Punctum morseanum* Pilsbry, 1902

28. ヒメナタネガイ *Punctum pretiosum* (Gude, 1900)

29. クルマナタネガイ *Punctum rota* Pilsbry & Y. Hirase, 1904

キバサナギガイ科 Family Vertiginidae

30. キバサナギガイ *Vertigo hirasei* Pilsbry, 1901 環境省（絶滅危惧 I 類）

キセルガイ科 Family Clausilidae

31. シリオレギセル *Megalophaedusa bilabrata* (E. A. Smith, 1876)

32. イヨギセル類似種 *Megalophaedusa* sp. cf. *iyensis* (Minato & Tada, 1977) 環境省（絶滅危惧 II 類）

33. ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871)

34. モリヤギセル *Stereophaedusa moriyai* (Kuroda & Iw. Taki, 1944) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (準絶滅危惧)
35. スグヒダギセル *Zptyx strictaluna* (Böttger, 1877)
- ナメクジ科 Family Philomycidae
36. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson in Cantor, 1842)
- コウラナメクジ科 Family Limacidae
37. チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* (Férussac, 1821)
- シタラ科 Family Euconulidae
38. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877)
39. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902)
40. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868)
41. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) 環境省 (情報不足)
42. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901)
43. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902) 環境省 (準絶滅危惧)
44. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900) 環境省 (準絶滅危惧)
45. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900)
46. コシダカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883)
47. ウメムラシタラガイ *Sitalina japonica* (Kuroda & Miyanaga, 1943) 環境省 (準絶滅危惧)
48. カサキビ *Trochochlamys crenulata* (Gude, 1900)
49. オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900) 環境省 (情報不足)
50. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissimi* (Pilsbry & Y. Hirase, 1909) 環境省 (準絶滅危惧) 山口県 (絶滅危惧 II 類)
51. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata* (Pilsbry, 1901) 環境省 (準絶滅危惧)
- ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae
52. ヒラベッコウ *Tbekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900) 環境省 (情報不足)
53. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877)
- ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family Camaenidae
54. ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850)
55. チクヤケマイマイ *Aegista aemula* (Gude, 1900)
56. マメマイマイ *Aegista commoda* (A. Adams, 1868)
57. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae* (Gude, 1900)
58. チョウシュウシロマイマイ *Aegista hirosifukudai* Hirano, Kameda & Chiba, 2015 環境省 (絶滅危惧 II 類) 山口県 (準絶滅危惧)
59. *Aegista* 属の一種 *Aegista* sp.
60. トサマイマイ類似種 *Aegista* sp. cf. *kobensis pertenuis* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904)
61. サンインマイマイ *Euhadra dixonii* (Pilsbry, 1900)
62. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbose* (Kobelt, 1894)
63. シメクチマイマイ *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900)
64. ニッポンマイマイ *Satsuma japonica* (L. Pfeiffer, 1847)
65. コバソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1866)

二枚貝綱 Class Bivalvia

ドブシジミ目 Order Sphaeriida

ドブシジミ科 Family Sphaeriidae

66. ドブシジミ *Musculium japonicum* (Westerund, 1883)

マルスダレガイ目 Order Sphaeriidae

シジミ科 Family Cyrenidae

67. マシジミ *Corbicula leana* Prim, 1864 環境省（絶滅危惧 II 類）山口県（情報不足）

謝 辞

本稿を作成するにあたり、矢野重文氏（日本貝類学会評議員）には同定作業や査読など、多田 昭（香川県）、宮崎晋介（福岡県）、石川 裕（愛媛県）、田中 浩（山口県立博物館）の各氏には標本・情報提供や採集同行など協力を受けました。また、直接、貴重な情報や資料の提供を受けた方、文献上の記録を引用させていただいた方々に対しましてもここに記してお礼を申し上げます。

参考文献

- 東 正雄（1995）原色日本陸産貝類図鑑（増補改訂版）. xvi+ 343pp.+ 80pls., 保育社, 大阪 .
- 福田 宏（2002）徳地町の貝類 (60- 67p.) in 徳地町の自然 . 101pp., 徳地町文化協会, 山口徳地 .
- 福田 宏（2020）軟体動物門 . In 岡山県野生動物目録 2019 ver. 1. 4, 38pp., 岡山県環境文化庁自然環境課, 岡山 .
- 福田 宏・増野和幸・杉村智幸（1992）概説 山口県の貝類 . 99pp.+ 50pls., 山口県立山口博物館, 山口 .
- 福田 宏・福田敏一（1995）山口市・阿知須町で得られた注目すべき淡水生貝類 . 山口県の自然 , **55**: 21-26.
- 福田敏一（1990）徳地町島地におけるヒメマルマメタニシの生息状況 . ユリヤガイ , **1**: 10.
- 波部忠重（1990）日本非海産水棲貝類目録（その 1～3） . ひたちおび , (54): 3- 6, (55): 3- 9, (56): 3- 7., 東京貝類同好会 .
- Hirano, T., Kameda, Y.& Chiba, S. (2015) A new species of *Aegista* (Gastropoda : Eupulmonata : Camaenidae) from the Chugoku District, Western Honshu, Japan. *Molluscan Reserch*, **35**(2): 128-138.
- Shigeo Hori, Toshikazu Fukuda, Ken- Ichi Hosaka, Kazuyuki Mashino and Ikuyo Koda（1997） On the populations of *Hippeutis cantori* (Benson, 1850), a vulnerable freshwater snail (Branchiopulmonata: Planorbidae) in Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **5**(1/ 2): 61- 68.
- Ken-Ichi Hosaka & Hiroshi Fukuda（1996） Discovery of a population of an endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda: Neotaenioglossa: Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yuriyagai*, **4**(1/ 2): 65- 96.
- 藤原廣治（1972） 山口県のオキギセル . 山口県の自然 , **27**: 19.
- 板垣 博（1956）本邦産コンダカヒメモノアラガイの解剖学的研究（欧州産型との比較）及びその生態 . 貝類学雑誌（Venus） , **19**(1): 25- 38+ 5pls.
- 環境省自然環境局野生生物課（2020）環境省レッドリスト 2020 (redlist kairui). <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/booklist>.

- 河本卓介 (1966) 大島瀬戸の貝類. 山口県の自然, **2**(16): 38-44.
- 河本卓介・田邊澄生 (1956) 山口県産貝類目録. 8+ viii+170pp., (include. 25pls.), 山口県立山口博物館, 山口.
- 河添佳典 (1994) 柳井湾一帯の貝類採集目録. 8+ 1map., 自刊 (謄写刷).
- Yasunori Kano, Hiroshi Fukuda, Hiroshi Yoshizaki, Miyoko Saito, Ken-Ichi Hosaka, Tomoyuki Sugimura, Yasuko F. Ito, Hiroji Fujiwara, Yasuhiro Nakamura, Kazuyuki Mashino, Kenji Ito, Kunihiko Tone, Toshikazu Fukuda, Teruhisa Mitoki, Hiroyoshi Yamashita, Shigeo Hori, Kotoe Hori and Hisasuke Hori (2001) Distribution and Seasonal maturation of the alien slug *Lehmannia valentiana* (Gastropoda: Pulmonata: Limacidae) in Yamaguchi Prefecture, Japan. *The Yuriyagai*, **8**(1): 1-13.
- 久賀町史編纂委員会 (1954) 久賀町誌. 476pp., 久賀町.
- 久賀町史編纂委員会 (2004) 久賀町史 現代編. 377pp., 久賀町.
- 黒田徳米 (1958) 日本及び隣接地域産陸棲貝類相 (4). *Venus*, **20**(1): 132-158.
- 黒田徳米・波部忠重 (1949) かたつむり (*Helicacea*). 129 pp., 三明社, 東京.
- 黒住耐二 (2012) トクサオカチョウジガイ (p. 203-204). In 原色図鑑 外来害虫と移入天敵. 404pp., 全国農村教育会, 東京.
- 増野和幸 (1989) 美祿郡陸産ならびに淡水産貝類相. 57pp. (incl. 8pls.), 自刊, 山口小郡.
- 増野和幸 (1990) 山口県柳井市平郡等の貝類. 山口生物, **17**: 4-9.
- 増野和幸 (1993) 山口県上関町祝島の非海産貝類. 山口県の自然, **53**: 18-22.
- 増野和幸 (2008a) 山口県田布施町の非海産貝類. 山口県の自然, **68**: 16-23.
- 増野和幸 (2008b) 山口県熊毛郡平生町の非海産貝類相. 山口生物, **30**: 26-51.
- 増野和幸 (2008c) 自然観察ガイドブック作成のための基礎資料 上関町の非海産貝類. I-iii+42pp., 自刊, 山口.
- 増野和幸 (2014) 秋吉台草原上に形成されたブッシュ (小樹林) の陸貝相. 山口県の自然, **74**: 29-35.
- 増野和幸 (2022a) 山口県防府市野島の陸・淡水産貝類. 山口生物, (41): 11-24.
- 増野和幸 (2022b) 萩市見島・溜池調査に伴い観察された淡水産貝類 (予報). 山口生物, (82): 1-4.
- 増野和幸・阿部弘和 (2001) 山口県熊毛郡上関町長島および八島の非海産貝類, 山口生物, **27**: 3-16.
- 増野和幸・吉崎 宏 (2007) 淡水棲腹足類の絶滅危惧種 2 種 ヒメマルマメタニシ *Bithynia kiusiuensis* とクルマヒラマキガイ *Hippentis cantori* の山口県東部における棲息状況, 山口県の自然, (67): 23-26.
- 増野和幸・鳥越賢治 (2011) キュウシュウシロマイマイ 2 亜種の殻形態とその生息環境. *Venus*, **69**(3/4): 177-194.
- 増野和幸・鳥越兼治 (2014) キュウシュウシロマイマイ 種群とシロマイマイにおける殻形態と軟体部形質の比較. *Venus*, (72) (1/4) : 89-108.
- 増野和幸・川野敬介 (2017) 下関市豊田町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (9): 7-49.
- 増野和幸・川野敬介 (2018) 下関市豊北町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 51-84.
- 増野和幸・川野敬介 (2020) 下関市豊浦町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (12): 1-37.
- 増野和幸・川野敬介 (2021) 下関市菊川町の陸産・淡水産貝類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (13): 19-54.
- 増野和幸・川野敬介 (2022) 旧下関市東部の陸産・淡水産貝類 (汽水産を含む). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (14): 15-55.
- 増野和幸・川野敬介 (2023) 旧下関市西部の陸産・淡水産貝類 (汽水産を含む). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (15): 1-10.

- ジウム研究報告書, (15): 23- 68.
- 増田 修 (2002) サカマキガイ - 日本の水田や水路にすっかり定着 - in 外来種ハンドブック .390pp., 日本生態学会編, 地人書館, 東京.
- 増田 修・内山りゆう (2004) 日本淡水産貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水産貝類 . 240pp., 株式会社ピーシーズ, 東京.
- 湊 宏 (1974) オキギセルとモリヤギセル . 山口県の自然, **31**: 8- 11.
- 湊 宏 (1980) 陸産貝類の観察と研究 . 85 pp., ニュー・サイエンス社, 東京.
- 湊 宏 (1988) 日本陸産貝類総目録 . 294 pp., 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜.
- 湊 宏 (1989) 総説シーボルトコギセルガイ . 日本の生物, **3**(5): 48- 54.
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究 . *Venus*, Supplement 2: 212pp. +tables 6 +plates 74. 日本貝類学会.
- 湊 宏 (2015) 中国地方産ゴマガイ科貝類の新種・ダイオウゴマガイ . *Venus*, **73**(1- 2): 75- 78.
- Motochin, Wang & Ueshima, Rei (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, **181**: 795- 845.
- 大島町誌編纂委員会 (1994) 周防大島町誌 復刻版 . 1200pp., 大島町.
- 澤島拓夫・瀬口翔太・黒住耐二 (2018) 奈良公園で発見された外来種キイロナメクジについて . 近畿大学農学部紀要, **51**: 70- 74.
- 橘町史編集委員会 (1983) 橘町史 . 733pp., 橘町.
- 東和町誌編纂委員会 (1982) 東和町誌 . 933pp., 東和町.
- 山口県 (2019) レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物 (貝類) . 山口県環境生活部自然保護課 . <https://www.yamaguchi-rdb.com/site/index.php>.
- 山口 昇・波部忠重 (1958) 日本産ナメクジ類の研究 (1) . *Venus*, **18**(4): 234-240.
- 矢野重文 (2016) ナタネガイ類の分類について . まいご, **23**: 3- 10, 四国貝類談話会 .

補 遺

*過去に文献またはデータとして記録が残っている種及び今回の調査で確認できなかった種 [種名, 学名, 産地, 採集日, 採集者, 掲載文献等] (標本が確認できないものを含む.)

ゴマガイ科 Family Diplommatinidae

コベルトゴマガイ *Diplommatina kobelti* Pilsbry, 1901 嘉納山, 1983-VII-29, 1 ex., 多田 昭.

キュウシュウゴマガイ *Diplommatina tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry & Y. Hirase, 1904 嘉納山, 1983-VII-29, 10 exs., 多田 昭.

カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

クリイロカワザンショウ *Angustassiminea castanea* (Westerlund, 1883) 大島町瀬戸 [山口県の自然 (1966)]

サツマクリイロカワザンショウガイ *Angustassiminea satumana* (Habe, 1942) 1993-XII-17, 情島 増野 [山口県 RDB 基礎資料]

カワザンショウガイ *Assiminea japonica* Martens, 1877 大島町瀬戸 [山口県の自然 (1966)]

ホラアナミジンニナ *Moria nipponica* (Mori, 1937) 大島町棟畑, 1998-VI, 藤原廣治 [山口県 RDB 基礎資料]

ヘソカドガイ *Paludinellassiminea japonica* (Pilsbry, 1901) 情島, 1993-XII-18, 増野 [山口県 RDB 基礎資料]

オオウスイロヘソカドガイ *Paludinellassiminea tanegashimae* (Pilsbry, 1924) 情島, 1993-XII-17, 増野 [山口

県 RDB 基礎資料]

ワカウラツボ科 Family Iravadiidae

カワグチツボ *Fluviocingula elegantula* (A. Adams, 1861) 大島町瀬戸 [山口県の自然 (1966)]

サカマキガイ科 Family Physidae

サカマキガイ *Physella acuta* (Draparnaud, 1805) 大島町棟畑, 1998-VI, 藤原廣治 [山口県 RDB 基礎資料]

オカミミガイ科 Family Ellobiidae

シイノミミガイ *Cassidula plecotrematoides japonica* Möllendorff, 1901 大島町瀬戸 [山口県の自然 (1966)]

ウスコミミガイ *Laemodonta exaratooides* Kawabe, 1992 大島町瀬戸 [山口県の自然 (1966)]

アフリカマイマイ科 Family Achatinidae

オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (Pilsbry & Y. Hirase, 1904) 大島町小松・志駄岸八幡宮 [山口県の自然 (1966)]

サツマオカチョウジガイ *Allopeas satsumense* (Pilsbry, 1906) 西方・長崎, 1993-XII-17, 増野 [山口県 RDB 基礎資料]

サツマオカチョウジガイ *Allopeas satsumense* (Pilsbry, 1906) 神浦 1993-XII-17 増野 [山口県 RDB 基礎資料]

キセルガイ科 Family Clausiliidae

チビギセル *Megalophaedusa expansilabris* (Böttger, 1877) 文殊堂, 2022-X-13, 1ex., 多田 昭.

ハリマギセル *Hemizapyx stimpsoni harimensis* (Pilsbry, 1901) 大島町小松・志駄岸八幡宮 [山口県の自然 (1966)]

ハリマギセル *Hemizapyx stimpsoni harimensis* (Pilsbry, 1901) 伊保田 [山口県産貝類目録 (1956)]

ハリマギセル *Hemizapyx stimpsoni harimensis* (Pilsbry, 1901) 鯛峰, 1983-VII-29, 1ex., 多田 昭.

シイボルトコギセル *Hemizapyx sieboldii* (L. Pfeiffer, 1849) 橘町 [橘町史 (1983)]

シタラ科 Family Euconulidae

ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900) 嘉納山, 1983-VII-29, 1ex., 多田 昭.

ベッコウマイマイ科 Family Helicarionidae

オオヒラベッコウガイ *Bekkochamys dulcis* (Pilsbry, 1902) 1993-XII-18 情島 増野 [山口県 RDB 基礎資料]

ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科) Family Camaenidae

ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana* (L. Pfeiffer, 1850) 橘町 [橘町史 (1983)]

チクヤケマイマイ *Aegista aemula* (Gude, 1900) 橘町 [橘町史 (1983)]

チクヤケマイマイ *Aegista aemula* (Gude, 1900) 大島町小松・志駄岸八幡宮 [山口県の自然 (1966)]

オオケマイマイ *Aegista vulgivaga* (Schmacker & Böttger, 1890) 東和町伊保田 [山口県産貝類目録 (1956)]

サンインマイマイ *Euhadra dixonii* (Pilsbry, 1900) 橘町 [橘町史 (1983)]

ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi* (E. von Martens, 1861) 大島町小松・志駄岸八幡宮 伊藤賢司 1995-V-5 [山口県 RDB 基礎資料]

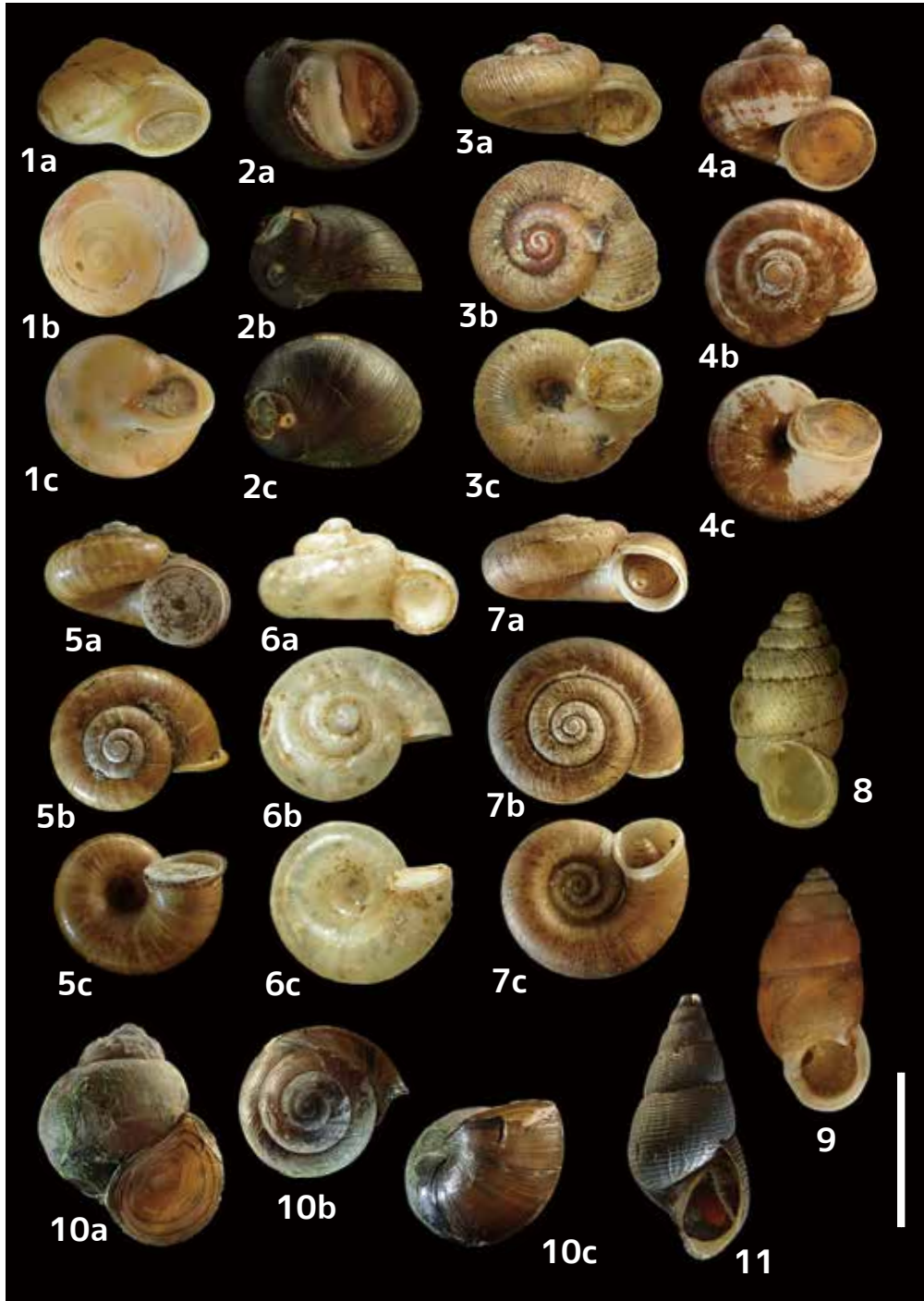
セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894) 橘町 橘町史 (1983)

コベソマイマイ *Satsuma myomphala* (Martens, 1866) 大島町小松・志駄岸八幡宮 山口県の自然 (1966)

ビドウロマイマイ類 *Nipponochloritis* sp. 大島町小松・志駄岸八幡宮 山口県の自然 (1966)

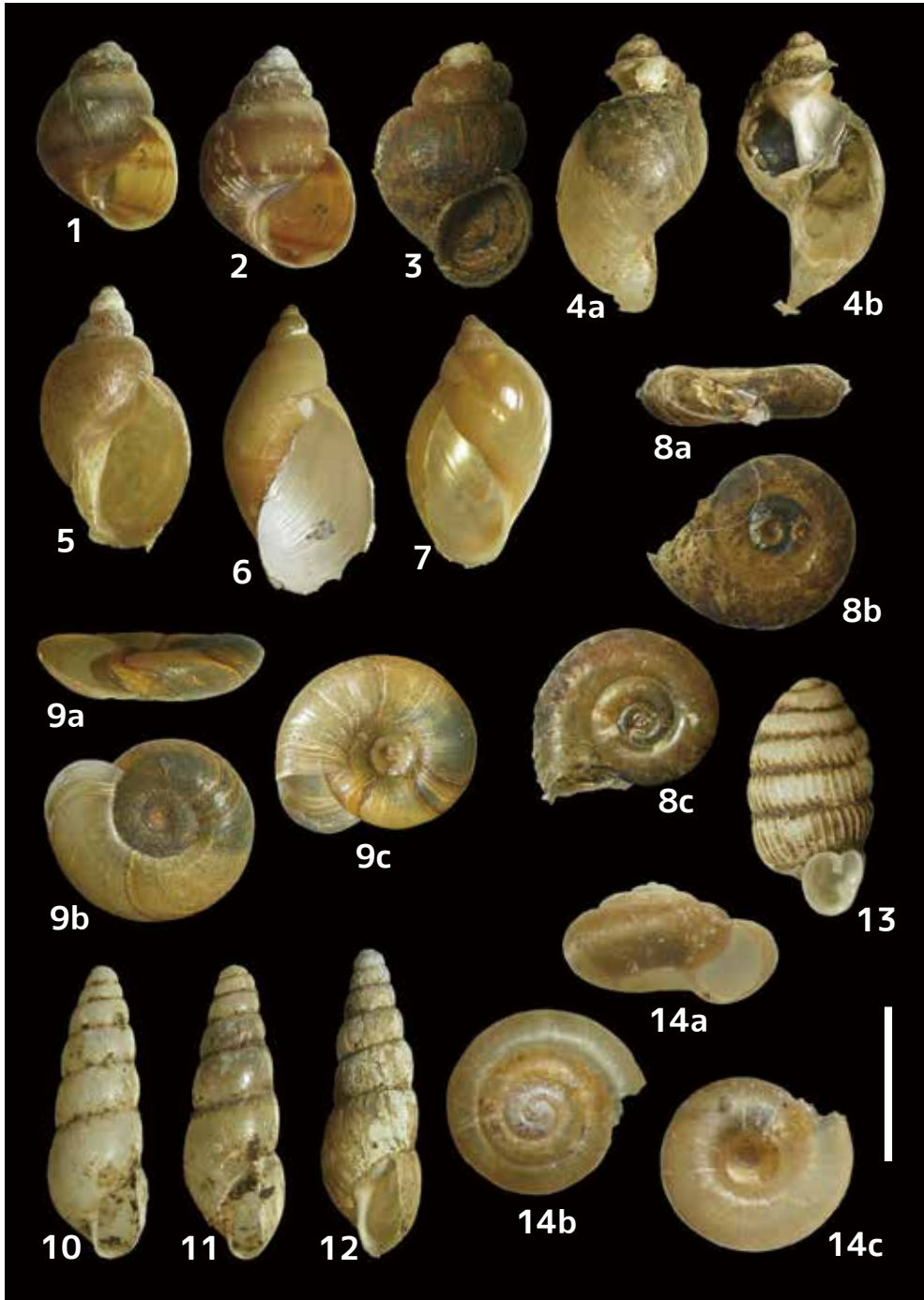
ソメワケシロマイマイ *Trishoplita cretacea bipartita* Pilsbry, 1901 大島町小松・志駄岸八幡宮 山口県の自然 (1966)

図版I (Plate I)



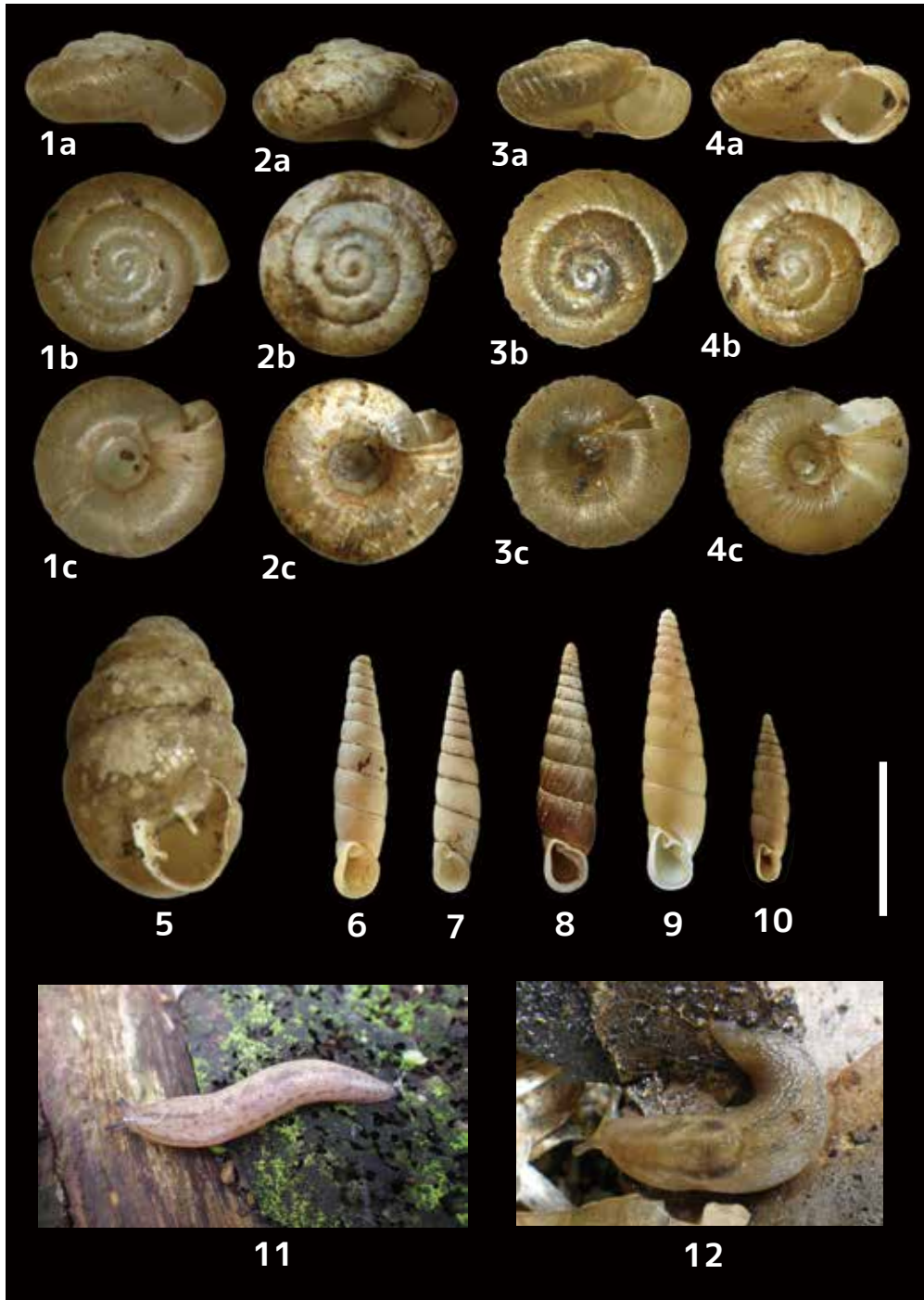
1a- c. ヤマキサゴ (馬ノ背) [Scale bar : 9. 9 mm] ; 2a- c. イシマキガイ (東三蒲) [17. 5 mm] ; 3a- c. ビルスプリムシオイガイ (馬ノ背) [2. 5 mm] ; 4a- c. ヤマタニシ (馬ノ背) [19. 1 mm] ; 5a- c. アツブタガイ (飯ノ山) [11. 1 mm] ; 6a- c. ミジンヤマタニシ (嵩山) [1. 4 mm] ; 7a- c. ヤマククルマガイ (飯ノ山) [11. 8 mm] ; 8. ダイオウゴマガイ (嵩山) [2. 9 mm] ; 9. アズキガイ (伊保田) [6. 6 mm] ; 10a- c. マルタニシ (西屋代) [21. 1 mm] ; 11. カウニナ (東三蒲) [15. 4 mm].

図版II (Plate II)



1. ツブカワザンショウガイ (屋代川河口) [4. 2 mm] ; 2. カワザンショウガイ (屋代川河口) [4. 8 mm] ; 3. ヒメマルマメタニシ (東三蒲) [5. 5 mm] ; 4a- b. コシダカヒメモノアラガイ (小松) [2. 6 mm] ; 5. ヒメモノアラガイ (東三蒲) [4. 4 mm] ; 6. ハフタエモノアラガイ (東三蒲) [5. 1 mm] ; 7. サカマキガイ (東三蒲) [4. 4 mm] ; 8a- c. トウキョウヒラマキガイ (東三蒲) [3. 5 mm] ; 9. クルマヒラマキガイ (小松) [5 mm] ; 10. ユウドオカチョウジガイ類似種 (西屋代) [4. 5 mm] ; 11. ユウドオカチョウジガイ類似種 (馬ノ背) [3. 9 mm] ; 12. トクサオカチョウジガイ (西方) [4. 8 mm] ; 13. タワラガイ (馬ノ背) [1. 9 mm] ; 14a- c. ミジンナタネガイ (西方・白木社) [0. 9 mm].

図版III (Plate III)



1a- c. ハリマナタネガイ (嵩山) [0. 9 mm]; 2a- c. ツクシナタネガイ (嵩山) [1. 1 mm]; 3a- c. ヒメナタネガイ (嵩山) [1. 4 mm]; 4a- c. クルマナタネガイ (源明山) [1. 4 mm]; 5. キバサナギガイ (嵩山) [0. 9 mm]; 6. シリオレギセル (延命の滝) [16. 7 mm]; 7. イヨギセル類似種 (馬ノ背) [13. 7 mm]; 8. ナミギセル (嵩山) [17. 4 mm]; 9. モリヤギセル (文殊堂) [16. 7 mm]; 10. スグヒダギセル (久賀) [13. 8 mm]; 11. ナメクジ (小松) [15. 2 mm]; 12. チャコウラナメクジ (小松) [28. 3 mm].

図版IV (Plate IV)



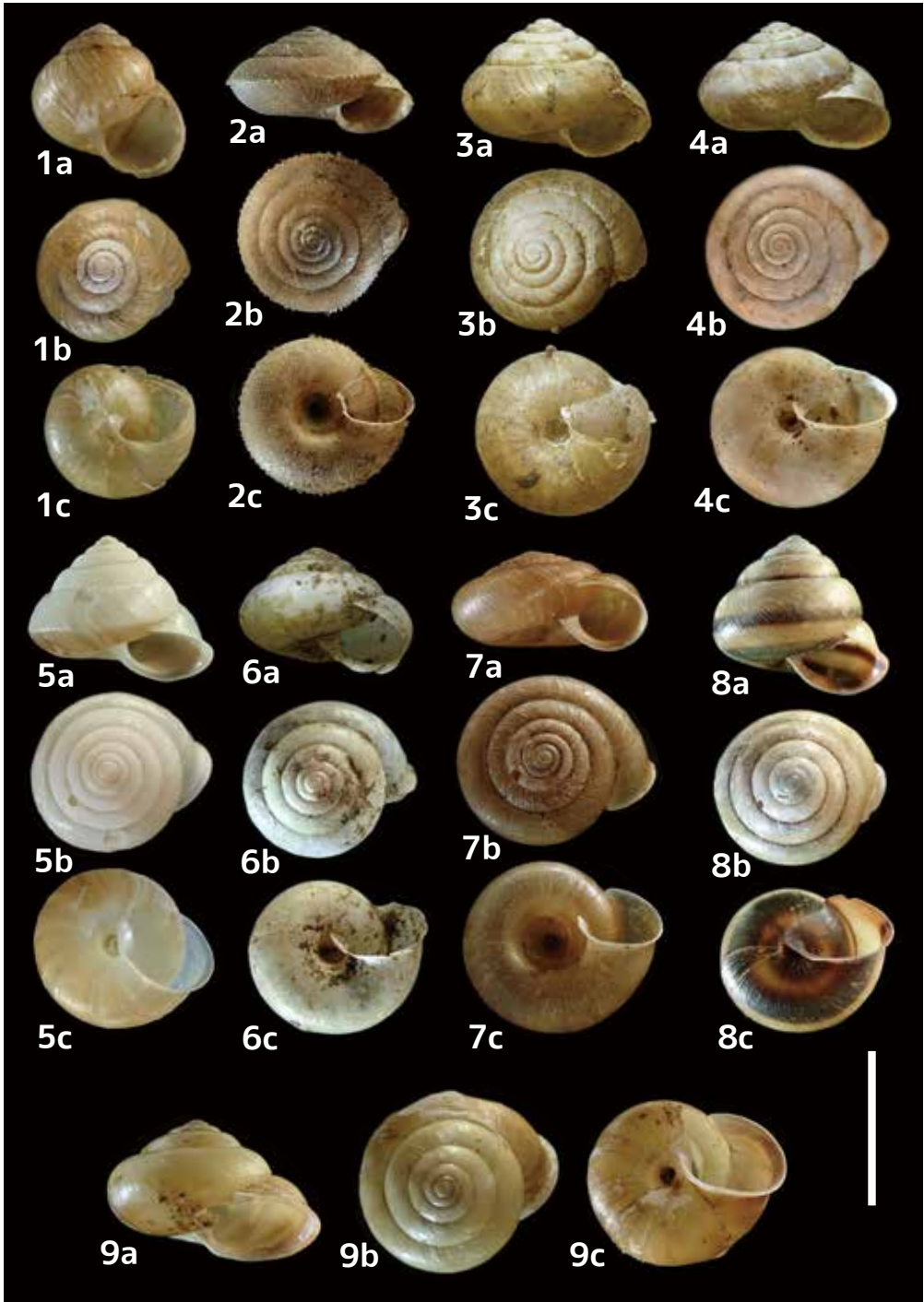
1a- c. ヒメベッコウガイ (嵩山) [1. 4 mm]; 2a- c. ヤクシマヒメベッコウガイ (馬ノ背) [1. 8 mm]; 3a- c. キビガイ (源明山峠) [1. 4 mm]; 4a- c. キヌツヤベッコウガイ (嵩山) [4. 4 mm]; 5a- c. ハリマキビ (嵩山) [1. 5 mm]; 6a- c. ヒゼンキビ (嵩山) [1. 4 mm]; 7a- c. ヒメハリマキビ (白木山) [1. 2 mm]; 8a- c. マルシタラガイ (源明山) [2. 2 mm]; 9a- c. コシダカシタラガイ (嵩山) [1 mm].

図版 V (Plate V)



1a-c. ウメムラシタラガイ (笛吹峠) [1. 2 mm]; 2a-c. カサキビ (嵩山) [2. 3 mm]; 3a-c. オオウエキビ (嵩山) [1. 2 mm]; 4. ツシマナガキビ (嵩山) [2. 7 mm]; 5a-c. ヒメカサキビ (白木山) [2 mm]; 6a-c. ヒラベッコウガイ (嵩山) [7. 4 mm]; 7a-c. ウラジロベッコウガイ (嵩山) [2. 5 mm].

図版 VI (Plate VI)



1a-c. ウスカワマイマイ (西方) [16. 9 mm]; 2a-c. テクヤケマイマイ (油田) [12. 5 mm]; 3a-c. マメマイマイ (飯ノ山) [6 mm]; 4a-c. ダコスタマイマイ (笛吹峠) [8. 3 mm]; 5a-c. チョウシュウシロマイマイ (油宇) [13. 5 mm]; 6a-c. *Aegista* 属の一種 (屋代) [10. 3 mm]; 7a-c. トサマイマイ類似種 (嵩山) [10. 4 mm]; 8a-c. サンインマイマイ (延命の滝) [22. 9 mm]; 9a-c. セトウチマイマイ (和田) [22. 7 mm].

図版 VII (Plate VII)



1a- c. シメクチマイマイ (伊保田) [11. 3 mm]; 2a- c. ニッポンマイマイ (笛吹峠) [10. 7 mm]; 3a- c. コベソマイマイ (笛吹峠) [16. 1 mm]; 4. ドブシジミ (東三蒲) [4. 4 mm]; 5a- b. マシジミ (屋代川) [17. 8 mm].